

10. 臨床研究支援センター

臨床研究支援センター概説

実施体制は、センター長（医師）1名、CRC 6名（看護師4名、薬剤師2名）、薬剤師1名、臨床検査技師（兼務）1名、事務2名、嘱託事務1名の計12名である。主な業務は、治験・製造販売後調査・医学系研究・特定臨床研究の支援、事務局業務、倫理審査業務、利益相反（COI）のマネジメント審査及び医学系研究における教育研修業務、医学生・薬学生に対するBSLである。

本年度は新規治験を32件受託（内7件を院内CRCが担当）し、昨年度に比べて増加した。地域の治験拠点医療機関として治験・臨床研究の活性化を促進するため、治験実務者会議を開催していたが、今年度も新型コロナウイルス感染拡大回避のため、開催は中断している。

県主導NPO法人治験ネットワーク福岡の推進活動及び九州地区国立私立11大学病院臨床研究支援の在り方検討会についてはWEB会議で実施され、課題解決を継続的に検討する体制が維持された。

（1）2023（令和5）年度 月別治験実施状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
契約件数	85	87	84	86	84	83	84	84	88	84	84	81
契約症例数(A)	319	325	314	330	326	311	318	321	324	325	322	298
実施症例数(B)	183	180	176	173	175	172	178	166	177	171	171	152
実施率(B/A)	57%	55%	56%	52%	54%	55%	56%	52%	55%	53%	53%	51%

（2）2023（令和5）年度 診療科別月別治験実施状況

診療科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
腫瘍・血液・感染症内科	2/8 25%	2/9 22%	2/9 22%	2/9 22%	4/9 44%	4/9 44%	4/9 44%	4/9 44%	6/11 55%	6/13 46%	6/13 46%	6/13 46%
内分泌・糖尿病内科	3/4 75%											
循環器内科	20/62 32%	24/65 37%	26/65 40%	26/65 40%	28/65 43%	35/65 54%	38/65 59%	40/76 53%	40/76 53%	43/76 57%	42/75 56%	23/55 42%
消化器内科	13/29 45%	13/33 40%	13/32 41%	13/32 41%	12/29 41%	12/27 44%	12/25 48%	12/29 41%	10/26 39%	10/26 39%	10/26 39%	7/25 28%
腎臓・膠原病内科	11/17 65%	11/17 65%	11/19 58%	11/19 58%	11/19 58%	3/9 33%	4/9 44%	4/9 44%	4/9 44%	3/8 38%	3/9 33%	2/8 25%
呼吸器内科	9/30 30%	9/30 30%	9/24 38%	10/24 42%	11/24 46%	14/26 54%	15/27 56%	15/27 56%	15/27 56%	16/27 59%	17/27 63%	17/29 59%
脳神経内科	23/33 70%	19/29 66%	15/25 60%	15/25 60%	15/25 60%	15/25 60%	15/25 60%	15/23 65%	15/23 65%	10/17 59%	10/17 59%	10/19 53%
精神神経科	0/6 0%	0/6 0%	1/7 14%	1/7 14%	1/9 11%	1/9 11%	1/9 11%	1/9 11%	1/9 11%	2/9 22%	2/10 20%	2/10 20%
小児科	9/17 53%	9/17 53%	8/15 53%	8/15 53%	8/15 53%	8/15 53%	8/15 53%	6/12 50%	6/12 50%	6/12 50%	6/12 50%	6/10 60%
消化器外科	2/4 50%	2/4 50%	2/4 50%	2/8 25%	0/4 0%	0/4 0%	0/4 0%	0/4 0%	1/4 0%	1/12 8%	1/12 8%	1/12 8%
心臓血管外科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0/5 0%	0/5 0%	0/5 0%
呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
脳神経外科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
整形外科	18/22 82%	18/22 82%	18/24 75%	14/20 70%	14/23 61%	14/23 61%	15/23 65%	15/23 65%	18/23 78%	11/15 73%	11/15 73%	13/15 87%
皮膚科	66/77 86%	63/79 80%	61/76 80%	61/77 79%	61/75 81%	62/78 80%	62/84 74%	50/77 65%	52/77 68%	56/82 68%	55/77 71%	54/73 74%
腎泌尿器外科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
産婦人科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
耳鼻咽喉科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
麻酔科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
眼科	1/2 50%	1/2 83%	1/2 83%	1/2 83%								
放射線科	-	-	-	0/15 0%	0/15 0%	0/15 0%	0/15 0%	0/15 0%	1/15 7%	3/15 20%	4/15 27%	4/15 27%
総合周産期母子医療センター	6/8 75%	6/8 75%	6/8 75%	6/8 75%	6/8 75%	-	-	-	-	-	-	-
救命救急センター	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
臓器移植医療センター	-	-	-	-	-	-	0/2 0%	0/2 0%	0/2 0%	0/2 0%	0/3 0%	3/3 100%

1) 表中の各欄の上段は、科別実施症例数/契約症例数、下段は実施率を示している。

(3) 終了した治験実施率(製造販売臨床試験を除く)

年度	平成30年度	令和1年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
件数	39	27	26	33	26	39
実施率%	79(161/203)	61(52/85)	69(77/111)	70(81/115)	77(83/108)	71(133/188)

(4) 新規治験受入状況の年度推移

診療科	年度		平成30年度		令和1年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	契約件数	症例数	契約件数	症例数	契約件数	症例数	契約件数	症例数	契約件数	症例数	契約件数	症例数	契約件数	症例数
腫瘍・血液・感染症内科	2	3	1	1	-	-	-	-	3	7	2	4		
内分泌・糖尿病内科	1	4	-	-	-	-	1	12	-	-	-	-		
循環器内科	-	-	2	15	2	10	-	-	5	39	2	14		
消化器内科	3	6	7	14	11	17	5	10	4	7	5	12		
腎臓・膠原病内科	2	15	3	27	-	5	1	5	1	1	1	2		
呼吸器内科	2	2	3	9	1	3	3	14	5	13	3	8		
脳神経内科	5	35	1	6	5	18	3	14	4	7	1	2		
精神神経科	5	13	1	2	1	2	2	3	2	2	2	3		
小児科	-	-	1	1	3	4	3	5	3	11	-	1		
消化器外科	2	8	-	-	-	-	1	4	-	-	2	12		
呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	-	-	1	5	-	5	-	-	-	-	-	-		
心臓血管外科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	5		
脳神経外科	-	-	1	2	-	2	-	-	-	-	-	-		
整形外科	1	6	4	13	1	6	-	8	-	6	2	10		
形成外科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
皮膚科	7	37	14	63	4	21	7	16	4	17	9	31		
腎泌尿器外科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
産婦人科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
眼科	-	-	2	4	-	-	1	1	-	-	-	-		
耳鼻咽喉科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
放射線科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	15		
麻酔科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
救命救急センター	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
総合周産期母子医療センター	-	-	1	4	-	-	-	-	-	-	-	-		
臓器移植医療センター	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3		
合計	30	130	42	166	28	93	27	92	31	110	32	122		

(5) 国際共同治験・医師主導治験・医療機器治験の受入状況の推移

年度	平成30年度	令和1年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
国際共同治験 (アジア治験)	16 (2)	26 (0)	21 (0)	14 (2)	21 (0)	26 (1)
医師主導治験	-	2	-	-	1	1
医療機器治験	-	1	1	1	2	3
再生医療治験	1	3	-	-	1	-

(6) 外部監査受け入れの推移

年度	平成30年度	令和1年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
監査回数	1	4	0(コロナ禍)	3(1)	2	2

※()PMDAによるGCP実地調査数

(7) 院外への治験等の啓発活動

平成19年度より採択された治験拠点病院における治験活性化5ヵ年計画事業を引き継ぎ、14回目の市民に対する市民カレッジを開催する予定であったが、コロナ禍による感染拡大を避けるため、本年も中止とした。

(8) 医学系研究・特定臨床研究受入状況の推移

年度	平成30年度	令和1年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
医学系研究	257	286	318	315	285	260
特定臨床研究	61	16	7	15	7	7

※医学系研究は、医の倫理委員会にて審査された医学部、病院を含む

(9) 医学系研究に対するCRC支援対応の推移

年度	令和1年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
医学系研究	2	-	1	-	-

脳神経外科、脳神経内科

脳神経外科

(10) 医学系研究指針等に関する院内教育研修初回セミナー開催の推移

「特定臨床研究」に関する院内教育研修初回セミナーを開催した。

年度	平成30年度	令和1年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
開催回数	10	20	40	20	-	-

※令和3年6月に臨床研究(医学系研究)の指針が、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に統合された。また、新型コロナウイルス感染拡大の影響を鑑み、令和3年10月以降、臨床研究(医学系研究)の対面によるセミナーは開催せずに、Webで動画を公開しているため、回数のカウントは不可。

(11) 製造販売後調査受入状況の推移

年度	平成30年度	令和1年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
新規	43	45	31	40	30	24
継続(追加)	24	19	10	15	7	15
合計	67	64	41	55	37	39

(12) 利益相反(COI)マネジメント初回受入の推移

福岡大学臨床研究に係る利益相反ポリシーに準じて他施設も含めた臨床研究等に関する利益相反マネジメントを本年度も実施した。また、厚労省・AMED補助金に関するCOIについても事務局支援を行った。

年度	平成30年度	令和1年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
審査数	193	145	147	171	124	150
審査延べ人数	585	461	642	757	536	553

(13) 大学間相互事業

九州地区11大学病院連絡会(琉球大学主管)における臨床研究支援に係る会議にリモートで参加し、情報共有を行った。

(14) その他(学会等)

令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が「5類感染症」へ移行されたため、本年度より医学系大学倫理委員会が山梨大学及び大阪医科薬科大学にて対面式で開催され、臨床研究法や医に関する倫理指針改定など新たなトピックスについて情報共有を行った。

11. 臨床工学センター

2023年（令和5年）年度臨床工学センター業務実績

（1）臨床技術提供関連（件数）

部署		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
手術部 (SICU含む)	人工心肺装置操作	症例数	14	16	8	14	10	12	9	8	11	7	14	7	130
	経皮の心肺補助装置操作 V-A ECMO	症例数	0	0	0	1	0	3	0	0	0	1	1	0	6
		管理	0	0	0	6	0	3	0	0	0	18	2	0	29
	経皮の心肺補助装置操作 V-V ECMO	症例数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
		管理	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	大動脈バルンパンピング装置 (IABP) 操作	症例数	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	3
		管理	0	0	0	7	15	6	0	0	0	0	0	0	28
	肺移植	症例数	1	3	1	0	1	0	2	1	1	2	0	0	12
	術中・術後自己血回収装置操作	症例数	38	38	28	38	24	25	35	24	25	29	23	33	360
	レーザー装置操作	症例数	2	4	11	2	14	7	4	6	2	3	3	9	67
	ロボット支援手術装置操作	症例数	35	38	43	39	31	45	41	37	33	33	40	40	455
	MEP 検査 (心外)	症例数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	MEP 検査 (整形)	症例数	3	7	6	5	5	4	3	4	5	9	12	5	68
	持続的腎機能代替療法 (CRRT)操作	症例数	2	1	1	2	3	0	0	2	0	1	1	0	13
		管理	9	6	1	5	23	3	0	18	0	2	10	1	78
アフエレスシス操作 (PE, PA, DHP, DFPP)	症例数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	
	管理	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	
病棟	大動脈バルンパンピング装置 (IABP) 操作	症例数	1	3	0	0	0	1	0	0	1	0	3	2	11
		管理	1	7	2	1	0	4	0	2	1	0	5	8	31
	持続的腎機能代替療法 (CRRT)操作	症例数	3	4	4	1	2	2	1	4	2	2	2	2	29
		管理	51	8	15	3	10	22	6	19	8	11	23	8	184
救命救急センター	経皮の心肺補助装置操作 V-A ECMO	症例数	1	1	0	2	1	1	4	0	1	1	1	2	15
		管理	7	1	0	3	8	2	7	0	4	15	3	21	71
	経皮の心肺補助装置操作 V-V ECMO	症例数	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2
		管理	0	0	0	0	7	14	0	5	12	22	0	3	63
	大動脈バルンパンピング装置 (IABP) 操作	症例数	0	0	0	1	0	1	0	0	3	1	0	0	6
		管理	1	0	0	4	5	5	0	0	7	6	2	0	30
	持続的腎機能代替療法 (CRRT)操作	症例数	1	4	5	2	1	2	1	3	2	1	2	4	28
		管理	22	29	24	11	17	17	6	10	18	25	5	24	208
アフエレスシス操作 (PE, PA, DHP, DFPP)	管理	0	7	3	2	0	1	1	1	4	1	0	1	21	
体温管理装置	管理	14	11	13	13	13	15	7	11	5	9	0	0	111	
人工臓器装置操作	管理	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
血液浄化療法センター	血液透析施行数	件数	390	476	412	458	427	462	395	371	397	398	367	414	4,967
	アフエレスシス施行数	件数	36	17	5	2	27	24	2	19	11	7	6	5	161
	腹水濃縮施行件数	件数	3	2	3	3	4	3	0	0	2	4	1	1	26
	出張透析施行件数	件数	17	13	10	11	5	9	1	10	5	14	12	0	107
心カテ室	血管内超音波装置 (IVUS) 操作	件数	8	26	15	18	15	14	9	14	16	14	19	14	182
	FFR/iFR	件数	11	7	9	9	8	10	12	14	7	13	8	5	113
	OFDI	件数	1	1	2	1	0	0	7	2	3	2	2	1	22
	ロータブレード操作	件数	0	2	4	0	3	0	3	2	3	1	3	1	22
	レーザー操作	件数	0	0	0	1	0	2	1	1	1	0	1	2	9
	人工呼吸器操作	件数	2	2	2	2	0	4	1	3	4	1	2	6	29
	大動脈バルンパンピング装置 (IABP) 操作	件数	0	2	1	1	0	3	0	0	2	1	2	1	13
経皮の心肺補助装置 (PCPS) 操作	件数	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	3	
脳神経血管内治療室	血管内超音波装置 (IVUS) 操作	件数	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	3
	検査・治療補助	件数	1	4	3	1	2	5	2	1	5	2	4	2	32

アフエレスシス：PE, PA, DHP, DFPP

- ・平成24年9月 人工臓器装置購入
- ・平成26年5月より脳神経血管内治療業務開始（火・木曜日のみ）
- ・平成26年9月より心カテ室にレーザー導入
- ・平成27年6月よりロボット支援手術装置（ダヴィンチ）導入
- ・救命救急センター2019年4月より心肺蘇生後に体温管理装置（サーモガード、Arctic Sun）使用

(2) 医療機器保守管理関連

機種名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
人工呼吸器使用中点検 病棟※1	132	172	178	125	85	146	168	173	148	121	96	100	1,644
救命救急センター	101	194	108	100	207	178	128	198	154	200	59	124	1,751
NICU	26	5	54	88	62	88	101	75	65	95	140	67	866
SICU	25	30	33	24	29	23	15	19	19	30	25	25	297
人工呼吸器使用前点検 病棟	12	18	23	14	12	17	10	15	16	18	21	22	198
救命救急センター	29	32	27	45	26	35	28	33	43	29	17	30	374
NICU	21	25	28	29	42	32	25	10	30	23	36	24	325
SICU	19	17	14	15	11	14	11	7	11	14	13	9	155
シリンジポンプ貸出し前点検	58	54	86	55	74	72	76	73	71	68	89	65	841
輸液ポンプ貸出し前点検	148	142	162	165	187	147	127	140	157	135	109	152	1,771
除細動器・AED点検	44	44	44	44	44	44	44	44	44	44	44	44	528
保育器 使用前点検	32	40	32	33	42	39	30	33	30	28	32	33	404
低圧持続吸引器貸出し前点検	11	19	15	13	9	8	17	12	14	8	21	14	161
経腸栄養ポンプ貸出し前点検	6	14	13	10	8	6	15	9	3	7	13	8	112
体動コールセンサー貸出し前点検	42	49	47	62	58	35	31	47	44	39	30	56	540
離床センターマット貸出し前点検	28	21	34	31	22	30	21	20	39	15	14	36	311
逐次型空気圧式マッサージ器貸出し前点検	48	28	37	34	34	18	21	21	25	31	17	38	352
ベッドサイドモニター・テレメータ貸出し前点検	11	2	7	10	11	10	3	5	13	8	10	11	101
合計	509	505	569	560	580	507	459	469	540	467	466	542	10,731

※1 病棟ラウンド・回路交換含む

- ・平成24年12月よりファイバー洗浄機フィルター交換開始
- ・平成25年1月より経腸栄養ポンプの点検開始
- ・平成25年6月より3階東に臨床工学センターが移転し中央機器管理開始
- ・平成25年10月より軟性ファイバの点検開始

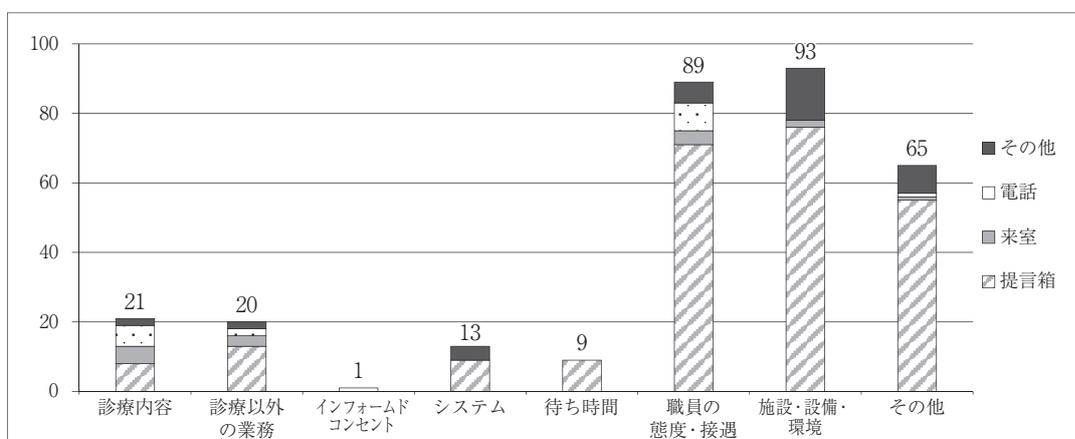
12. 医療安全管理部

(1) ご意見・ご要望

① R05年度内容別手段別件数

(件)

内容	手段	提言箱	来室	電話	その他	計	%
診療内容		8	5	6	2	21	6.8%
診療以外の業務		13	3	2	2	20	6.4%
インフォームドコンセント		0	0	1	0	1	0.3%
システム		9	0	0	4	13	4.2%
待ち時間		9	0	0	0	9	2.9%
職員の態度・接遇		71	4	8	6	89	28.6%
施設・設備・環境		76	2	0	15	93	29.9%
その他		55	1	1	8	65	20.9%
合計		241	15	18	37	311	100.0%



(2) 職員研修

① 2023 (令和5) 年度医療安全・感染対策院内教育実施状況

主催：医療安全管理部、感染制御部

	開催月日	時間	対象	テーマ	場所
第1回	4月25日(火)～ 5月15日(月)	60分	全職員	安全 「医療安全2023」 講師：和田 秀一 (医療安全管理部部長) 感染 「感染制御2023」 講師：戸川 温 (感染制御部長)	On Demand
第2回	5月17日(水)～ 5月31日(水)	60分	全職員	安全 「医薬品の安全管理」 講師：今村 健 (医療安全管理部・医薬品安全管理責任者) 「術後合併症を防ぐ～予防と早期発見～」 講師：秋吉 浩三郎	On Demand
第3回	6月2日(金) 講演 6月7日(水)～ 6月20日(火) On Demand	17:00～ 18:00	全職員	安全 「患者安全と、医療の質改善を向上させる 心理的安全性を伴ったチームビルディング」 講師：医療安全管理部 教授 深見 達弥 先生 (島根大学医学部附属病院 病院長補佐) 日本専門医機構共通講習	メディカル ホール On Demand
第4回	7月4日(火)～ 7月18日(火)	30分	全職員	安全 「診療用放射線の安全利用のための研修」 講師：長町 茂樹 (医療放射線安全管理責任者) *放射線診療従事者受講必須研修	On Demand
第5回	8月1日(火)～ 8月14日(月)	30分	全職員	感染 「感染対策への取り組み」 講師：橋本 丈代 (感染対策担当管理者)	On Demand
第6回	9月5日(火)～ 9月19日(火)	30分	全職員	安全 「医療安全の倫理的側面」 講師：今泉 聡 (生命医療倫理学)	On Demand
第7回	10月3日(火) 講演 10月11日(水)～ 10月24日(火) On Demand	17:00～ 18:00	全職員	感染 「抗菌薬適正使用への取り組み」 講師：感染制御部 副部長 濱田 洋平 先生 (佐賀大学医学部附属病院) 日本専門医機構共通講習	メディカル ホール On Demand
第8回	11月14日(火)～ 11月27日(月)	60分	全職員	安全 「生体情報監視モニタの看視義務 ～法的責任～」 講師：中村 伸理子 (医療安全管理部 弁護士)	On Demand
第9回	12月5日(火)～ 12月18日(月)	30分	全職員	感染 「抗菌薬適正使用への取り組み」 講師：塩塚 昭一 (感染制御部 薬剤師)	On Demand
第10回	2月5日(月)～ 2月16日(金)	30分	全職員	安全 「RRS 症例・活動報告」 講師：小吉 里枝 (医療安全管理部 副部長)	On Demand

○再視聴

2024年2月22日(木)～3月14日(木)	全職員	第1回～第10回 医療安全教育 On Demand 視聴
------------------------	-----	------------------------------

② 2023（令和5）年度医療安全・感染対策実践セミナー実施状況

主催：医療安全管理部、感染制御部

	月日	時間	対象定員	テーマ	場所
第1回	5月26日(金)	17:30~18:30	全職員 20名	「心肺蘇生法/AED演習」 講師：救命救急センター医師 救急看護認定看護師 集中ケア認定看護師	本館 3階北
第2回	6月23日(金)	17:30~18:30	医師 15名	「CVCエコーガイド下穿刺ハンズオン」 講師：手術部 麻酔科 岩下 耕平 先生	がんセンター ミーティング室
第3回	7月14日(金)	17:30~18:30	全職員 20名	「心肺蘇生法/AED演習」 講師：救命救急センター医師 救急看護認定看護師 集中ケア認定看護師	本館 3階北
第4回	8月8日(火)	17:30~18:30	全職員 20名	「心肺蘇生法/AED演習」 講師：救命救急センター医師 救急看護認定看護師 集中ケア認定看護師	本館 3階北
第5回	9月11日(月)	17:30~18:30	全職員 20名	「心肺蘇生法/AED演習」 講師：救命救急センター医師 救急看護認定看護師 集中ケア認定看護師	本館 3階北
第6回	10月19日(木)	17:30~18:30	全職員 15名	「CVCエコーガイド下穿刺ハンズオン」 講師：手術部 麻酔科 岩下 耕平 先生	研修センター B棟5階 会議室
第7回	11月20日(月)	17:30~18:30	全職員 20名	「心肺蘇生法/AED演習」 講師：救命救急センター医師 救急看護認定看護師 集中ケア認定看護師	本館 3階北
第8回	12月22日(金)	17:30~18:30	全職員 20名	「心肺蘇生法/AED演習」 講師：救命救急センター医師 救急看護認定看護師 集中ケア認定看護師	本館 3階北
第9回	1月25日(木)	17:30~18:30	全職員 20名	「心肺蘇生法/AED演習」 講師：救命救急センター医師 救急看護認定看護師 集中ケア認定看護師	本館 3階北
第10回	2月20日(火)	17:30~18:30	医師 15名	「CVCエコーガイド下穿刺ハンズオン」 講師：手術部 麻酔科 岩下 耕平 先生	新館 多目的室
第11回	3月22日(金)	17:30~18:30	全職員 20名	「心肺蘇生法/AED演習」 講師：救命救急センター医師 救急看護認定看護師 集中ケア認定看護師	本館 3階北

③ 出席状況

医療法により、医療安全および感染対策に関する職員研修についてはそれぞれ年2回以上の受講が義務付けられています。

対象者数	両方 達成率	出席状況(安全・感染)								
		安2-感2	安2-感1	安2-感0	安1-感2	安1-感1	安1-感0	安0-感2	安0-感1	安0-感0
1,887	100%	1,887 (100%)	0 (0.0%)							

1人当たり平均出席回数	安全	感染
	3.85回	2.78回

2回未満の人数 (重複あり)	安全	感染
	0人	0人
(2回未満の人数：合計)	(0人)	
(どちらかが0回の人数)	(0人)	
(両方とも0回の人数)	(0人)	

※前年度(R04年)の2回未満の人数
安全：4人 感染：7人

13. 感染制御部

1. スタッフ

部長	戸川 温 (ICD) (専任)
看護師長	橋本 文代 (ICN) (専従)
看護師	宮崎 里紗 (ICN) (専任)
細菌検査技師	徳重智絵美 (専任)、藤 洋美 (専任)、結城万紀子 (専任)
薬剤師	塩塚 昭一 (専従)
医療安全・感染管理事務室	佐々木克英、平井 友樹

2. 活動内容

感染制御部では、診療部、看護部、薬剤部、臨床検査部および事務部門の複数部門からなる関連他職種メンバーが連携して組織横断的に感染対策活動を行っている。感染対策の対象者には、病院を利用される患者及び家族、面会者、すべての医療従事者、委託業者、病院実習を行う学生が含まれる。

2.1. 感染制御チーム (Infection Control Team : ICT) 活動

1) 新型コロナウイルス感染症対策

2023年5月8日以降、新型コロナウイルス感染症は5類感染症へと移行した。

(1) COVID-19 受入患者数 (実績) (図1)

2023年4月1日～2024年3月31日までに、重症者は救命救急センターBユニットで15人の患者を受け入れた。軽症・中等症患者については、院内発生対応患者を含めて合計309人の患者の入院対応を行った。

(2) 院内発生対応

5類移行後も全国的な流行を繰り返し、特に夏季と冬季において感染者数および入院者数の増加を認めた。これに呼応する形で、夏季と冬季を中心に院内で9つのクラスターが発生した。クラスターが発生した病棟においては、迅速な感染拡大防止等の介入を行った。

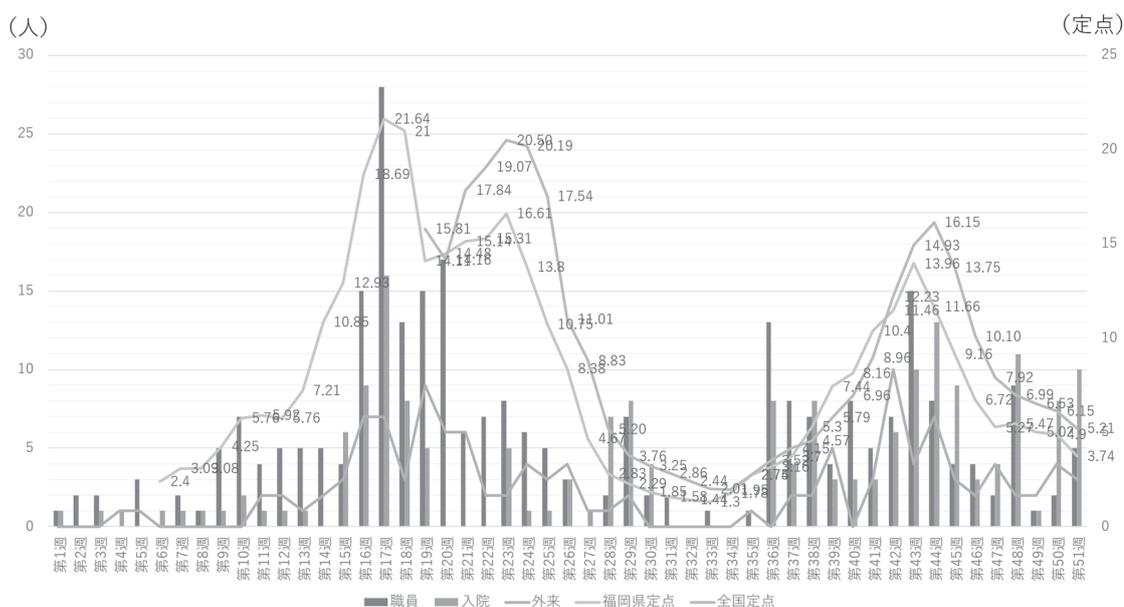


図1. 新型コロナウイルス感染症報告数 (2023/4/1～2024/3/31)

2) 感染の予防、対策

ICTによる院内巡視活動は1回/週、細菌ラウンドと環境ラウンドを実施し感染対策実施の確認、指導を行っている。細菌ラウンドは細菌検査室での分離菌一覧表（病院全体）に基づき院内巡回を実施している。

(1) 薬剤耐性菌サーベイランス

MRSAの新規検出患者数は、2023年度61人（0.29%）、2022年度73人（0.35%）であり、前年度比で減少を認めた（減少率16%）。ESBL産生菌の新規検出患者数は、2023年度50人（0.23%）、2022年度62人であり減少を認めた（減少率19%）。その他、多剤耐性緑膿菌の新規検出患者数は、2020年度0人、VREの新規検出患者数は2人であった。CREの新規検出患者数は、2023年度7人（0.03%）、2022年度8人であり同等であった。CDIは、2023年度14人（0.06%）であり2022年度35人から減少を認めた。

(2) 手指衛生実施状況のモニタリングと啓発活動

各病棟における各月のアルコール擦式手指消毒薬使用量について集計した。病院全体での1患者日あたりのアルコール擦式手指消毒使用量は、2023年度は18.8mlであり2022年度の20.3mlと比較して減少した。また四半期ごとに各病棟における消毒薬使用量を集計したところ、病棟間で使用量にバラツキがあることが明らかとなったため、使用量が比較的少ない病棟に対して重点的な啓発活動を行った。

(3) 医療関連感染サーベイランス

①中心静脈ライン関連感染（CLABSI）

2023年5月1日から全病院の入院患者を対象にCLABSIサーベイランスを実施した。

2023年5月1日から2024年3月31日までの中心静脈カテーテル感染の発生は22件、カテーテル使用比は0.09、感染発生率は1.44/1,000カテーテルあたりであった。

院内教育や病棟ICT研修会を通じて中心静脈ライン関連感染対策の研修を実施した。

②手術部位感染（SSI）

10診療科、30術式についてSSIサーベイランスを実施した。

主な術式と感染率について表1.に示す。

表1.主な術式とSSI発生率

術式コード	COLO	REC	SB	CARD	CBGB	CGBC	TAA
	結腸	直腸	小腸	心臓・弁	バイパス術 採取部位創	バイパス術 胸部創	胸部 大動脈
SSI発生件数（当院）	7	4	2	1	1	0	2
SSI発生率（当院）	4.2	4.3	8.3	3.8	4.2	0	3.8
SSI発生率（JANIS）	8	9.6	9.8	1.2	3.3	2.8	2.2

③人工呼吸器関連イベント発生サーベイランス（VAE）

救命救急センターの入院患者を対象にVAEサーベイランスとVAP予防策の評価を実施した。2023年5月1日から2024年3月31日までの人工呼吸器使用比は0.62、VAE発生件数は2件、感染発生率は1.59/1,000デバイスあたりであった（JHAIS2022年中央値：2.4）。VAE発生時は事例の振り返りとVAPバンドルの周知徹底を図った。

④膀胱留置カテーテル関連感染（CAUTI）サーベイランス

脳神経センターの入院患者を対象にCAUTIサーベイランスを実施した。2023年5月から2024年2月までの膀胱留置カテーテル使用比は0.12、CAUTI発生件数は6件、CAUTI発生率は4.77/1,000カテーテルあたりであった。

(4) 血液・体液曝露事故防止対策

血液・体液曝露事故について、内訳を見ると、針刺しでは2023年度35件、2022年度37件でありほぼ同等の件数となった。粘膜曝露の発生件数も6件で前年度と同等であった。

(5) 職員の衛生管理

インフルエンザワクチンについて、病院職員1,770人（接種率91.1%）、委託業者482人（接種率85.5%）の接種を実施した。

3) 感染対策に関する地域連携

(1) 感染防止対策向上加算1に係る感染対策ネットワークカンファレンスの実施

感染防止対策加算の施設基準に基づき、加算算定施設間で感染対策に関するカンファレンスを開催した。カンファレンスの一覧を表2.に示す。

表2. 2023年度に開催した感染対策カンファレンス一覧

開催日	テーマ	参加者数
2023年4月25日 第1回（対面）	福岡西部地区感染対策ネットワーク2022年度 手指消毒薬・耐性菌・抗菌薬サーベイランス結果報告、新型 コロナウイルス感染症5類移行後の感染対策について	70名
2023年6月27日 第2回（対面）	5類移行後の新型コロナウイルス感染症院内発生時の対応 について 連携強化加算について	74名
2023年9月26日 第3回（対面）	新興感染症対策 シナリオに基づく机上訓練 個人防護具着脱訓練（タイベック）	67名
2024年1月23日 第4回（対面）	CDI感染対策について	59名
2023年5月24日 個別カンファレンス 西新病院（Web）	福岡西部地区感染対策ネットワーク2022年度 手指消毒薬・耐性菌・抗菌薬サーベイランス結果報告、新型 コロナウイルス感染症5類移行後の感染対策について	9名
2023年11月24日 個別カンファレンス 福西会病院（Web）	新型インフルエンザ等の感染対策マニュアルについて	10名

(2) 指導強化加算に係る施設訪問（表3）

感染対策向上加算で連携している加算2の4施設に赴いて感染対策に関する指導・助言を行った。

表3. 指導強化加算に係る訪問

訪問日	訪問した医療機関
2023年7月14日	福西会南病院
2023年11月29日	白十字病院
2023年10月30日	糸島医師会病院
2024年1月11日	村上華林堂病院

4) 院外での社会貢献

2024年1月1日に発災した能登震災において、橋本が1月28日から1月31日の4日間 DICT（日本環境感染学会災害時感染制御支援チーム）のメンバーとして現地入りし、避難所等における感染対策に関する支援活動に参加した。

2.2 抗菌薬適正使用支援チーム（Antimicrobial Stewardship Team：AST）活動

当院では 2019 年 2 月から抗菌薬適正使用支援加算を取得し、院内および院外における抗菌薬使用の適正化に努めている。

1) 特定抗菌薬使用症例等への介入

(1) 特定抗菌薬および注射用抗真菌薬使用患者

STEP0（投与開始時）、STEP1（投与 7 日以上）、STEP2（投与 14 日以上）のタイミングで、全例介入している。

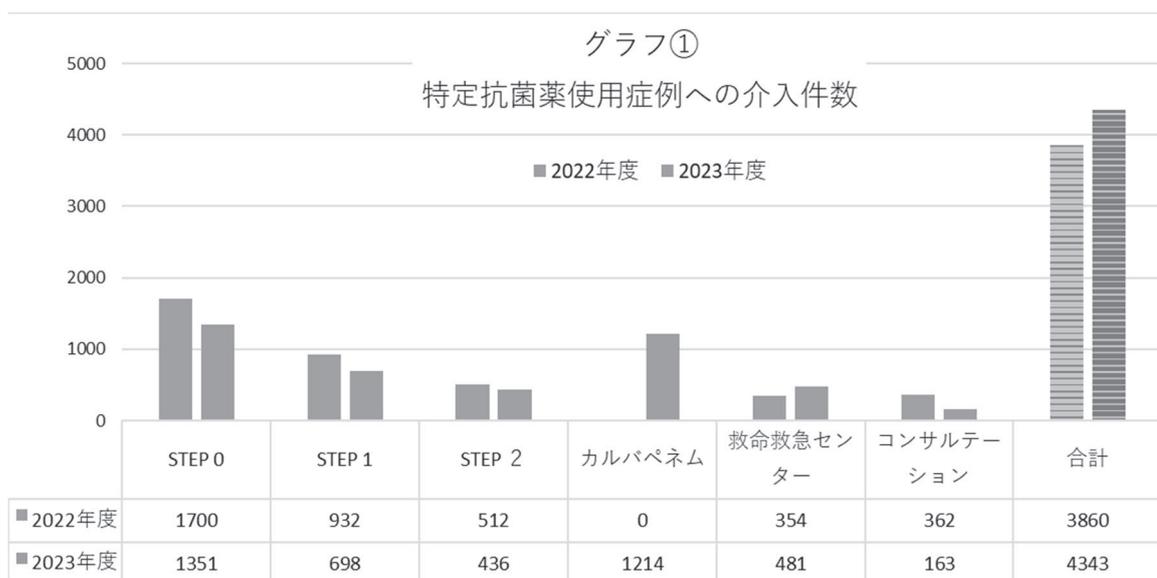
(2) カルバペネム症例

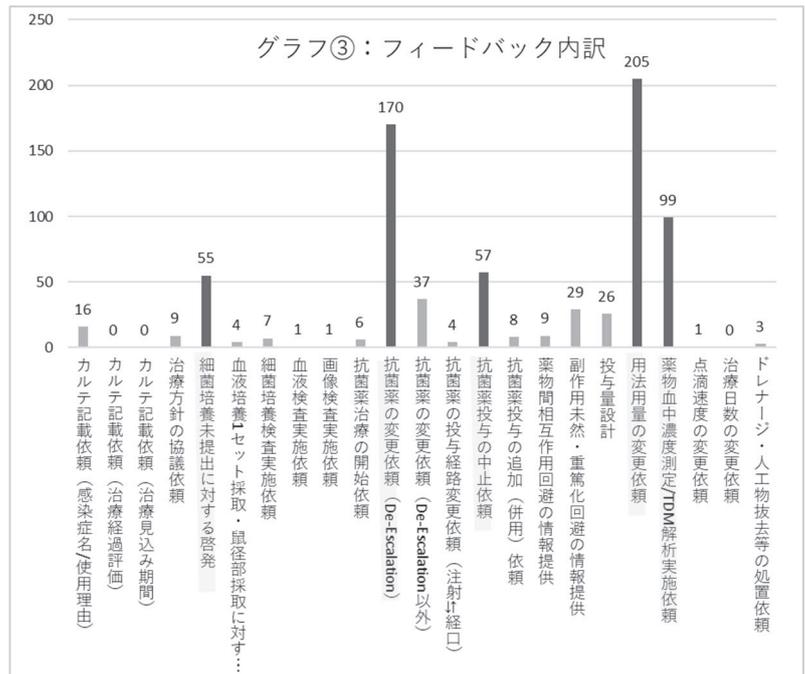
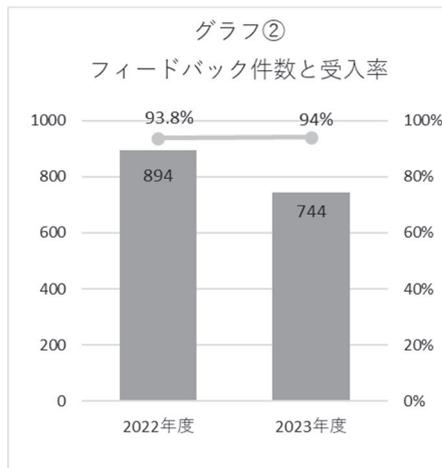
カルバペネム系抗菌薬を使用している患者は全例介入し、細菌培養結果、使用日数、使用抗菌薬の妥当性について評価している。

(3) 救命救急センター入院患者、院内コンサルテーション患者

細菌培養結果、血液・画像検査結果、選択抗菌薬、用法用量、薬物治療モニタリング（Therapeutic Drug Monitoring：TDM）実施状況、経口抗菌薬へのスイッチ、抗菌薬投与に関するカルテ記載状況などを経時的に評価し、主治医や病棟担当薬剤師へフィードバックを行っている。

グラフ①に前年度 2022 年度（全 3860 件）と今年度の 2023 年度（全 4343 件）に特定抗菌薬使用症例への介入件数を示している。2023 年度からカルバペネム使用症例への介入を開始している。





介入した症例のうち、フィードバックを行った件数と受入率をグラフ②に示している。受入率は2023年度も前年度同様90%を超えていた。

グラフ③には2023年度のフィードバック内訳を示している。最も多かったのは「用法用量の変更依頼」で205件、次いで抗菌薬の変更（De-Escalation）が170件だった。また、50件以上の項目として「薬物血中濃度測定依頼」、「抗菌薬投与の中止依頼」、「細菌培養未提出に対する啓発」が挙げられた。

その他の活動として、抗菌薬適正使用の推進に関する他施設からの相談は1件、VRE 検査対象患者に対する検査依頼は93件だった。

2) 菌血症例への介入

血液培養陽性症例のうち、コンタミネーションを除く菌血症例について介入を行った。2023年度の介入症例数は229例であり、前年度とほぼ同数だった。菌血症例が10例以上の診療科は、多い順に消化器外科（40例）、救命救急センター（36例）、消化器内科（27例）、腫瘍・血液・感染症内科（25例）、腎泌尿器外科（17例）、循環器内科（11例）、小児科（11例）、および心臓血管外科（10例）だった。介入症例については、グラム染色およびMALDI TOF/MSによる菌種同定結果に基づき、血液培養陽性が判明した当日中に介入を行い、必要に応じて病棟回診を行うとともに、抗菌薬の選択等に関する助言を行った。さらに、薬剤感受性検査の結果や臨床経過に基づき、標的治療として適切な抗菌薬の選択等に関する助言を行った。介入症例については治療終了まで介入を継続した。

14. 入退院支援センター

1. スタッフ

センター長 平井 郁仁
副センター長 頼永 桂
看護師長 谷口 法子
主任看護師 和田 樹

入退院支援に携わる医師、薬剤師、看護師、管理栄養士、歯科衛生士、事務職員 若干人

2. 業務内容

入退院支援センター（以下センター）は、全身麻酔で手術を受ける患者さんを対象とした周術期管理センターとしてスタートしました。その後、業務内容を拡充し、入院から退院までの全過程で患者さんをサポートする入退院支援の役割も含めた、入退院支援センターになりました。令和4年より診療支援部門として独立した組織に位置づけられています。

センターの役割は主に2つあります。1つは、手術を受ける患者さんの全身状態評価や休薬の有無を確認し、安全に手術が受けられるよう支援することです。もう1つは、入院を予定している患者さんに事前に入院生活や治療過程について知っていただき、安心して入院治療を受けていただけるようサポートすることです。センターに携わるスタッフは以下の役割を担い患者さんをサポートしています。

薬剤師

患者さんが服用中の薬剤を確認します。手術に伴い休薬が必要な薬剤があるときは、診療科やかかりつけ薬局に報告し安全に手術が行われるようサポートしています。また、患者さんの服薬に関する困り事は、病棟担当薬剤師と連携し服薬管理方法の検討を行う等、ポリファーマシーの対策にも取り組んでいます。

看護師

入院治療に関する患者さんの意向や疑問、不安を確認し病棟や外来の看護につなげます。必要であれば、外来や病棟以外にもソーシャルワーカーやチャイルド・ライフ・スペシャリスト等の専門職と連携し多職種で患者さんをサポートします。全身麻酔で手術を受ける患者さんは全身状態確認のため問診を行います。問診の結果は麻酔科と協議し安全に手術が受けられるよう追加検査の必要性や事前に治療が必要な疾患について検討します。

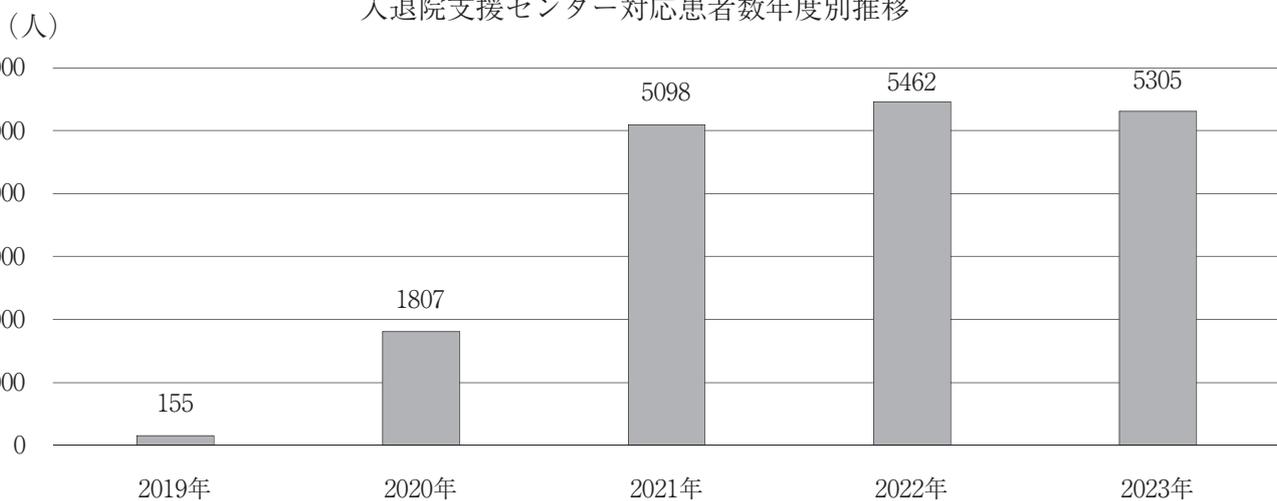
歯科衛生士

動揺歯があると、麻酔の際に歯の脱落や誤飲の危険があります。患者さんが安全に手術を受けられるよう、全身麻酔下で手術を受ける患者さんを対象に歯のチェックを行います。また、周術期口腔機能管理の対象となっている患者さんへは、術前に口腔内クリーニングを受けていただくための歯科受診をご案内しています。

2023年度入退院支援センター対応患者数 診療科別内訳



入退院支援センター対応患者数年度別推移



15. 看護部

1. 年間の概要

令和4年度、看護部ビジョンを『確かなわざ（技・業）とあたたかい心をもって全ての患者、全ての職員に幸せを』と掲げ新看護部は、令和5年度もこのビジョンを軸に「変化への対応と挑戦」をキーワードとし、看護部運営を進めてきました。ビジョン達成への戦略テーマは①安全な看護の提供②看護サービスの生産性の向上～看護の専門性の発揮～③やりがいのある職場環境づくりの3つです。看護提供体制は、福岡大学病院チームナーシングを導入し2年目となります。看護実践現場ではチームナーシングの「チームにおける自己の役割を果たす」「相手を尊重し協働する」「看護実践を通し互いに学び合い成長する」という3つの軸が整い始め、「チーム完結型」看護提供体制が定着してきています。このチームナーシングでの看護実践を基に、令和5年度看護部ビジョンの達成を目指して参りました。

また、令和6年5月に控えた新本館への移転においては、移転を理由とした医療・看護の質の低下、患者満足度の低下を回避すべく、看護部においても病院移転プロジェクトチーム、師長会、主任会を中心に1年かけて移転準備に取り組んでいきました。前年の合計特殊出生率1.26、高齢化率28.8%と報告され、超少子高齢化社会において看護に求められるニーズは多様化を増しています。このような社会の変化の中で、令和6年、福岡大学病院は50年ぶりの本館移転という、病院にとっても看護部にとっても大きな変化を迎えます。キーワードは「変化への対応と挑戦」。看護部は、看護職が誇りを持っていきいきと働き続けられる環境を創り、看護の力で患者、そして地域を支える看護部を目指しています。

2. 2023年度看護部活動内容

目標達成度：87.6%

■安全な看護の提供 目標達成度：83.9%

- 1) 患者の安全を最優先する風土づくり
 - (1)安全な医療を実践するためのチーム医療の推進
- 2) 医療安全活動の推進
 - (1)多職種による生体情報監視モニタの管理の強化
 - (2)医療関連感染防止対策（ケアバンドル）の強化
 - (3)身体拘束（身体抑制）の適切な運用
 - (4)療養環境・作業環境を整備し安全な環境を保持する
- 3) 基準に基づいた安全な看護の提供
 - (1)各基準の遵守
- 4) 侵襲のあるインシデントの発生を予防する
 - (1)患者確認方法を徹底し行動化する
 - (2)患者の状態に応じた転倒・転落予防の徹底

■看護サービスの生産性の向上～看護の専門性の発揮～ 目標達成度：83%

- 1) 一人ひとりの看護実践力向上
 - (1)各自のキャリア開発・教育課題に積極的に取り組む
 - (2)主任・教育担当者・コーチ・看護補助者支援ナースを中心に部署全体のOJTを推進する
- 2) 業務の標準化を図り質の担保をする
 - (1)病棟再編を見据えた業務基準・手順の作成
- 3) 質の高い看護サービスが提供できる体制構築
 - (1)福大チームナーシングの定着

- 4) 患者の意向をふまえた適時・適切な看護実践
 - (1)患者の情報共有と相互支援を作る仕組み・仕掛けづくり
 - (2)褥瘡発生リスクの高い患者への適切なケア提供
- 5) 入退院支援のケアプロセスを充実させる
 - (1)入院前からの計画的な退院支援の充実

■やりがいのある職場環境づくり 目標達成度：84.9%

- 1) 主体的なキャリア開発
 - (1)新人教育において各自が役割を發揮する
 - (2)本館を見据えた計画的な人材育成
 - (3)キャリアアップに向けて計画的に取り組む
- 2) 多職種連携による効果的な業務改善やタスクシェア
 - (1)多職種協働で業務フローの見直しに取り組む
 - (2)部署内におけるタスクシフト・タスクシェアの推進
- 3) 労働意欲が高まる職場環境づくり
 - (1)多様な勤務形態の活用を推進
 - (2)各部署内での担当役割の發揮と承認の場づくり
 - (3)グループ機能を生かした業務改善（ちょこっと改善）
- 4) 心身ともに健康で仕事ができる職場づくり
 - (1)セルフケアとお互のコミュニケーションを大切にした関係づくり

〈資料〉

○看護体制（入院基本料と看護配置基準）

入院基本料算定病床（令和5年4月1日）				
入院基本料区分		稼働病床数	看護単位	看護職員の配置基準届出区分
特定機能病院 入院基本料	一般病棟	691	17	7対1入院基本料
	精神病棟	60	1	13対1入院基本料
特定入院料算定病床（令和5年4月1日）				
特定入院料区分		届出病床数	看護単位数	看護職員の配置基準届出区分
特定集中治療室管理料1		10	2	常時2対1
脳卒中ケアユニット入院管理料		6	1	常時3対1
救命救急入院料4		10	1	常時2対1
救命救急入院料1		24	1	常時4対1
母体・胎児集中治療室管理料		6	1	常時3対1
新生児治療室管理料		15	1	常時3対1
新生児治療回復入院医療管理料		30	1	常時6対1
小児入院医療管理料		63	2	常時7対1

○看護職員数経緯（令和5年4月1日付）

	専任看護師		嘱託 看護師	ナースエイド EA	クラーク	臨床 保育士 CLS	筑紫病院との 施設間異動		備 考
	総数	新採用					入	出	
平成30年度	951	80	31	81	47	2	4	5	西新病院へ7月より師長1名看護部長として施設間異動 西新病院へ1名出向
平成31年/ 令和元年度	961	100	27	84	49	2	0	2	
令和2年度	952	88	25	97 24	47	2	0	4	博多駅クリニックより1名戻る 西新病院へ1名出向 夜間看護補助者の導入
令和3年度	972	69	28	95 24	49	2	0	4	博多駅クリニックより嘱託3名受入れ 西新病院へ1名出向（主任看護師） 西新病院より1名受入れ（6ヶ月間） 特任師長1名
令和4年度	948	55	28	97 24	49	2	1	5	西新病院へ2名出向（師長・主任） 特任師長1名 5月筑紫へ施設間異動1名 6月専任看護師2名採用 10月専任看護師1名採用
令和5年度	909	69	32	94 23	49	3	2	2	西新病院へ2名出向（師長・主任） 看護学科へ1名身分換え 特任師長1名 10月嘱託臨床保育士1名採用

○退職者数経緯（令和6年3月31日付）

	退職看護師（専任）					嘱託 看護師	嘱託 看護補助者	嘱託 クラーク	備 考
	退職者数(離職率)	新採用(離職率)	中途退職						
平成28年	97	9.9%	4	4.1%	11	2	6	1	専任看護師1名は嘱託看護師へ
平成29年	91	9.8%	0	0.0%	16	3	1	1	
平成30年	83	9.0%	0	0.0%	10	5	8	2	嘱託看護師2名は専任看護師へ
平成31年/ 令和元年	92	9.9%	6	6.0%	9	4	2	3	嘱託看護師2名は専任看護師へ 嘱託看護師1名は中途退職
令和2年	56	6.0%	3	3.4%	15	6	3	0	嘱託看護師2名は専任看護師へ 嘱託看護師2名は中途退職
令和3年	72	7.6%	3	4.3%	14	5	3	0	嘱託看護師2名は専任看護師へ 嘱託看護師1名は中途退職
令和4年	79	8.6%	3	6.3%	14	4	2	1	委託看護師2名は専任看護師へ 嘱託看護師1名は中途退職 嘱託ナースエイド1名は中途退職
令和5年	77	8.5%	2	1.4%	16	6	5	0	嘱託看護師1名は専任看護師へ 嘱託看護師2名は中途退職 嘱託ナースエイド1名は中途退職

○認定看護管理者教育課程修了者数（令和6年3月31日付）

認定看護管理者 教育課程	教育課程コース		修了者数
	ファーストレベル		92
	セカンドレベル		29
	サードレベル		13
※認定看護管理者取得数			13

○専門・認定看護師数（令和6年3月31日付）

領域	人数	領域	人数
がん化学療法看護	3	緩和ケア	2
がん放射線療法看護	2	認知症看護	1
救急看護	4	小児救急看護	1
集中ケア	2	心不全看護	1
皮膚・排泄ケア	3	腎不全看護	1
感染管理	3	精神科看護（日本精神科看護協会）	1
糖尿病看護	2	急性・重症者看護	2
摂食・嚥下障害看護	2	慢性疾患看護（脳卒中リハ看護と兼任）	1
脳卒中リハビリテーション看護	2		
合 計			33

○令和5年度 特定行為研修受講修了者数

選択区分	人数
栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連 循環動態に係る薬剤投与関連	1
栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連 血糖コントロールに係る薬剤投与関連	1
栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連 感染に係る薬剤投与関連	2
栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連 透析管理関連	1
呼吸器（気道確保に係るもの）関連 呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連 呼吸器（長期呼吸療法に係るもの）関連 栄養に係るカテーテル管理（中心静脈カテーテル管理）関連 栄養に係るカテーテル管理（末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理）関連 動脈血液ガス分析関連 栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連 循環動態に係る薬剤投与関連	1
合 計	6

○看護研究活動およびTQM（Total Quality Management）実績

	院内研究発表件数	院外発表件数	誌上発表件数	TQM 報告数	その他活動件数 （座長・講師・シンポジスト等）
平成30年度	11	27	5	26	91
令和元年度	7	17	7	19	135
令和2年度	6	15	5	17	77
令和3年度	6	19	3	13	116
令和4年度	12	11	3	6	141
令和5年度	10	17	6	11	168

※ TQM は看護師が参加している演題のみ

○令和5年度 院内教育研修プログラム 受講者数

対象者	研修名	時期	参加者数	
新採用者	採用時オリエンテーション (集合+部署内) (専任・嘱託・施設間異動者含む)	4月	72	
	接遇研修 (既卒者・嘱託・施設間異動者含む)	4月	72	
	電子カルテ操作の体験	4月	68	
	感染対策の基本	4月	63	
	採血(部署内研修)	4月	63	
	1ヶ月フォローアップ研修/ メンバーシップ	5月	63	
	医療安全Ⅰ	5月	63	
	フィジカルアセスメントⅠ	6月	64	
	看護必要度研修(部署内研修) (嘱託・施設間異動者・中途採用者含む)	6月	72	
	与薬の援助	7月	63	
	3ヶ月フォローアップ研修/ メンバーシップ	7月	63	
	輸液ポンプ・シリンジポンプの操作	8月	63	
	看護倫理Ⅰ	8月	61	
	多重課題(複数患者の対応)	9月	63	
	6ヶ月フォローアップ研修/ メンバーシップ	10月	63	
	吸引(部署内研修)	10月	63	
	静脈注射・末梢静脈路確保	10月	63	
	輸血療法時の看護	11月	63	
	患者急変時の看護Ⅰ(BLS)	11月	62	
	膀胱留置カテーテル挿入(部署内研修)	11月	62	
	12ヶ月フォローアップ研修/ メンバーシップ	2月	60	
	2年目	2年目フォローアップ研修	6月	43
		医療安全Ⅱ	7月	42
フィジカルアセスメントⅡ		8月	43	
患者急変時の看護Ⅱ		10月	41	
ナラティブ①		11月	45	
ナラティブ②		1月	45	
フォローアップ研修(振り返り)		2月	44	
レベルⅠ Ⅱ	がん看護Ⅰ	7月	70	
	リーダーシップⅠ	9・1月	60	
	退院支援Ⅰ	10月	85	
	看護倫理Ⅱ	12月	13	

対象者	研修名	時期	参加者数
レベルⅡ Ⅲ Ⅳ	臨地実習指導者育成	7・2月	24
	ケーススタディ	7・8 9・2月	0
	看護研究Ⅰ	7・8 9・10月	16
	がん看護Ⅱ	8月	18
	看護倫理Ⅲ	9月	14
	リフレクションⅠ	9月	10
	医療安全Ⅲ	10月	55
	フィジカルアセスメントⅢ	11月	29
	患者急変時の看護Ⅲ	12月	53
レベルⅢ Ⅳ	コーチ育成	3・6 11月	90
	看護研究Ⅱ	7・8・9 10・11月	2
	リーダーシップⅡ	8・12月	17
	リフレクションⅡ	8月	13
	ケアリング	9月	12
	退院支援Ⅱ	11月	24
	患者急変時の看護Ⅳ	1月	23
	IV～V	リーダーシップⅢ	7・10 2月
師長・主任	新規主任看護師コンピテンシー研修	通年	3
	新規主任嘱託者研修	5月	3
	新規主任嘱託者 中間研修	9月	3
	新規主任嘱託者 振り返り研修	1月	3
専門・認定 看護師	新規専門・認定看護師研修	5月	5
	新規専門・認定看護師中間研修	10月	5
	新規専門・認定看護師振り返り研修	2月	5
看護補助者・ クラーク	ナースエイド研修Ⅰ	5月	89
	ナースエイド研修Ⅱ	6月	93
	ナースエイド基礎Ⅲ-①	8・9 10月	50
	ナースエイド基礎Ⅲ-②	11・12月	38
	クラーク研修(部署内研修)	7月	52

〈専門領域研修プログラム〉

○令和5年度 院外での教育活動（専門・認定看護師および看護管理者は下記以外にも活動歴あり）

		活 動 内 容	人数
看護系 大学	福岡大学医学部	「医療安全と多職種連携」 講師	5
		「慢性期の看護」 講師	1
		「回復期・リハビリテーションと看護」 講師	2
		「リハビリテーション看護」 講師	1
		「精神看護実践論」 講師	2
		「成人看護学概論」 講師	1
		「成人看護学実習Ⅱ」 講師	2
		「がん看護」 講師	4
		「終末期の成人看護」 講師	1
		「看護管理」 講師	1
		「看護学概論」 講師	3
		「福岡大学で考える現代社会（生命・健康と医療）」 講師	2
		「看護技術総合学習」 実習指導担当	6
		「災害看護」 講師	1
		「感染看護」 講師	2
	キャリア形成支援・国家試験対策講座「先輩と語る」 講師	1	
福岡大学病院		緩和ケア研修会 講師	4
		七隈会（糖尿病患者会）運営	12
		地域医療連携の会	10
福岡大学筑紫病院		専門領域研修 「小児救急看護研修」 講師	1
		専門領域研修「がん看護研修Ⅱ」 講師	1
		専門領域研修「腎不全看護」 講師	1
		専門領域研修 「認知症看護研修」 講師	1
		透析医療・看護基礎研修 講師	1
福岡大学西新病院		看護部研修会「急変時の看護」 講師	1
		看護管理者支援 メンタル相談 講師	1
		院内研修「フィジカルアセスメント研修会」 講師	1
認定看護師教育課程		認定看護師管理者教育課程ファーストレベル 講師	1
		皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程「ストーマ管理」「創傷アセスメントと管理Ⅱ」 講師	3
		皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程 「排泄管理技術演習」実習指導者会	1
純真高等学校		看護専攻科 講師 「看護方法論Ⅰ」「看護の統合と実践Ⅱ（災害看護）」	1
国際医療福祉大学		「医療関連感染サーベイランス・感染予防技術」 非常勤講師	2
九州看護福祉大学		助産業務管理論 非常勤講師	1
霧島市立医師会医療センター		看護部研修会「入院生活における日常の看護倫理」 講師	1
牟田病院		看護の出前講座「糖尿病看護 糖尿病のフットケア」 講師	1
		看護の出前講座「摂食・嚥下障害看護 誤嚥性肺炎予防の看護介入」 講師	1
福岡徳洲会病院		第1回福岡徳洲会病院 緩和ケア研修会	1
長崎県看護協会		急性期における家族の思いに寄り添ったケア	1
みやき健幸大学		講師（後期）	1
福岡県病院協会		第168回看護研修会「認知症看護実践力向上研修Ⅳ」 庶務係	2
福岡市医師会		訪問看護研修「糖尿病看護」 講師	1

活 動 内 容		人数
福岡県看護協会	令和5年度研修会 「新人助産師研修」 講師	1
	令和5年度研修会 演習支援者 「認知症高齢者の看護実践に必要な知識 (JNA 収録 DVD 研修)」	1
	オンデマンド研修 「実践に活かす脳卒中看護の基本」 講師	1
福岡県看護協会	災害支援ナース養成研修 講師・ファシリテーター	1
	看護職員復職研修事業 「潜在看護職のための再就職支援セミナー」 講師 演習補助	3
	看護職員復職研修事業 「再就職のための看護技術セミナー (採血・注射編)」 講師	2
	「第2回母子とその家族のための地域包括ケア研修」 シンポジウム運営	1
	新人看護職員他施設集合研修 「今を乗り切ろう！～入職6ヶ月を振り返って～」 講師	1
	新人助産師研修 演習分娩介助の実際 講師	1
	福岡県新人看護職員実地指導者研修 講師	1
その他	福岡県看護学会 一般口演 口演3 看護総合I 座長	1
	協和キリン(株)皮膚科×神経内科 ジョイントの会 講師 「パーキンソン病 多職種連携における看護師の役割」	1
	日本看護倫理学会 第16回年次大会 シンポジスト講師	1
	第37回日本手術看護学会年次大会 シンポジスト シンポジウムⅦ：術後疼痛管理チームでハッピーに	1
	エーザイ(株)神経救急 Conference in 福岡 演者	1
	ながさき難病支援 Web セミナー 特別講演 講師	1
	福岡県 Active SMBG 糖尿病セミナー in 福岡 座長	1
	医) 唐虹会 虹と海のホスピタル 皮膚創傷学習会「皮膚創傷を学ぶ」 講師	1
	ELNEC-J クリティカルケアカリキュラム看護師教育プログラム 総括	1
	日精看福岡県支部主催 精神科症状別看護研修会 講師	1
	第48回日本大腸肛門病学会九州地方会 第39回ストーリーナビリテーション研究会 座長	1
	第10回日本糖尿病協会年次学術集会 スモールグループディスカッション ファシリテーター「サポートが必要な高齢者」	1
	第17回パーキンソン病・運動障害疾患コンgres サブプログラム 司会	1
	第45回日本呼吸療法医学会学術集会 シンポジスト 演者	1
	YMG 看護部研修 看護研究研修 (Web 研修)「看護研究とは 看護研究の進め方」 講師	1
	協和キリン Web セミナー「チームで取り組むパーキンソン病治療」 講師	1
	第30回病院清掃受託責任者講習会 講師 「病院清掃のための基本知識」「フリーディスカッション」	1
	第41回福岡救急医療会看護部研修会 座長	1
	九州クリティカルケア研究会 「災害・救急講座」オンライン研修 講師 災害医療の最前線！国内外の経験を共有して今できる事を考えよう！」	1
	第1回パーキンソン病患者さんの Well Being を考える講演会 講師	1
	引津コミュニティセンター主催 がんセミナー 講師	1
	波多江コミュニティセンター主催 がんセミナー 講師	2
	Parkinson's disease WEB seminar 演者	1
	日本難病看護学会企画セミナー 難病看護オンラインセミナー 講師	1
	テルモ(株) 感染対策セミナー 座長	1
	褥瘡対策セミナー (Web 開催) 座長	1

	活 動 内 容	人数
その他	川村義肢(株)介護サービス担当者のためのストーマケア講習会 (Web 研修) 講師	1
	第39回広島院内感染対策研究会 「感染対策の職員教育」 講師	1
	宮崎のパーキンソン病多職種連携を考える会 講師	1
	第27回福岡市認知症疾患医療センター研修会 担当	1
	旭化成ゾーンメディカル(株)第18回九州・沖縄臨床工学 スポンサーセミナー 講師 「High Quality TTM を考える～体温管理の質～」	1
	第7回 IBD メディカルセミナー in 九州 司会・演者	3
	ノボノルディスクファーマ(株)第54回筑紫糖尿病・内分泌アーベント 講師	1
	日本滅菌業協会 第16回統一継続研修会 「滅菌管理士・受託責任者の皆さんへの期待」 講師	1
	第25回日本救急看護学会学術集会 座長 交流集会7 私たちの臨床実践は看護なのか?	1
	第51回日本集中治療医学会学術集会 座長 一般演題 口演 45 「PICS 1」 ポスター39 「Papid response system4」	1
	第11回日本感染管理ネットワーク学会学術集会 シンポジウム3 「ICN の真価を問う」 講師	1
	鹿児島県医師会医療関連感染対策研修会 講師・パネルディスカッション	1
	2023年度私立大学病院感染対策協議会 看護師部会講演会 講師	1
	怡土コミュニティーセンター主催 がんセミナー 講師	2
	福岡 PD 看護セミナー「当院における腹膜透析感染対策について」 座長	1
	福岡西部腎不全看護ネットワーク 座長	1
	第61回日本糖尿病学会九州地方会 講師 ワークショップ3 「糖尿病診療における働き方改革とタスクシフト」	1
	第8回 PD ナース・メディカルスタッフ研修会 講師	1
	「救急患者精神科継続支援料」にかかる要件研修 「自殺再企図防止のための急変患者精神科継続支援研修会」ファシリテーター	1
	(株)大塚製薬開発品 ユーザーインターフェース評価者	2
	アルケア(株)社内勉強会 ナーシングケア勉強会 (Web 開催) 講師	1
	ELNEC-JCC 指導者養成プログラム 講師・ファシリテーター	1
	四国大学生生活科学部児童学科2年次科目「子どもの健康と安全」 講師	1
	住友ファーマ(株) 福岡パーキンソン病診療センター地域連携フォーラム 司会	1
	厚生労働省 自殺未遂者等支援拠点医療機関整備事業 ケースマネジメントブラッシュアップ研修 講師	2
	第11回ニューロサイエンス看護学会学術集会 ワークショップサポーター	3
	パラマウントベッド(株)褥瘡予防のためのスキンケア 座長	1
	パラマウントベッド(株)第33回九州ストーマリハビリテーション講習会 講師	1
	EA ファーマ(株)第7回 IBD メディカルセミナー in 九州 司会	1
	武田薬品工業(株)第6回パーキンソン病多職種連携の会 講師	1
	アッヴィ (合同会社) 「世界パーキンソン病 Day 市民公開講座」 講師 「パーキンソン病におけるコミュニケーションのポイント」	1
	日精看こころの健康出前講座 講師 若年層のメンタルヘルスの特徴と具体的な対応 (事例検討も含む)	1
	日精看 福岡県支部主催 講師 「筑豊地区」精神科看護の基本の“き”日精看ラダーレベル1項目に沿って「精神科症状別看護」	1
厚生労働省自殺未遂者等支援拠点医療機関整備事業 講師 「医療機関における自殺のリスクの高い患者さんへの対応の研修」	1	

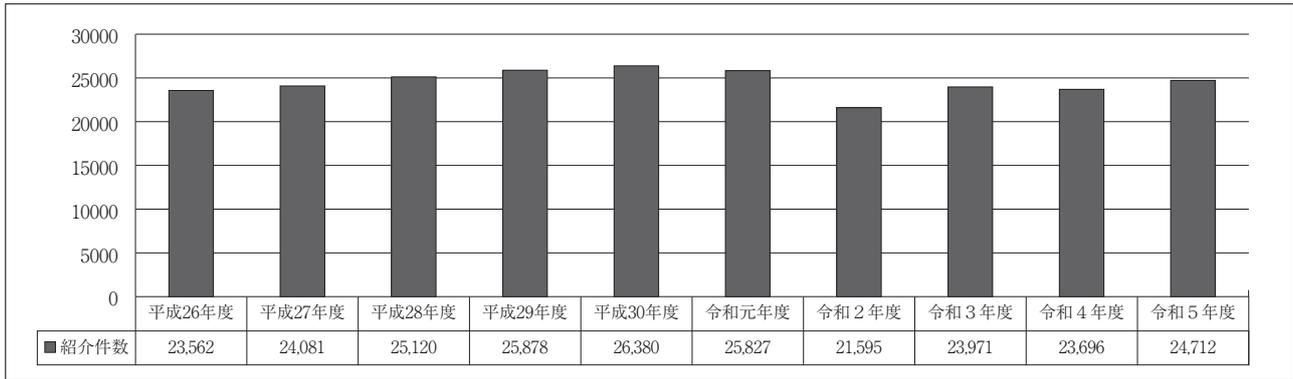
○令和5年度 地域貢献活動

活 動 内 容	人数
福岡県警察柔道・剣道大会 救護担当	2
福岡県警察逮捕術大会 救護担当	1
能登半島地震 DMAT 派遣	3
能登半島地震における DICT 派遣	1
G7広島サミット救急・災害医療対応検討協議会 急病等の診療応需・緊急医療	2
福岡市認知症疾患医療センター研修会 主催スタッフ	1
全国パーキンソン病友の会主催 第20回秋の一泊研修旅行 サポート 勉強会&講師	2
純真高等学校 看護専攻科 講師	1
福岡市立田隈中学校「みんなで話そう－看護の出前授業」 講師	1
福岡市立舞鶴中学校「みんなで話そう－看護の出前授業」 講師	1
福岡市立花畑中学校「みんなで話そう－看護の出前授業」 講師	1
牟田病院 「看護の出前授業」 講師	1
福岡市立特別支援学校博多高等学園「性と生の学習」 講師	1
九州クリティカルケア研究会 運営メンバー	1
日本輸血：細胞療法学会 九州支部会 評議委員	1
日本私立医科大学協会相互ラウンド 産業医科大学病院	3
第49回日本大腸肛門病学会九州地方会 第40回ストーマリハビリテーション研究会 副会長	1
第33回九州ストーマリハビリテーション講習会 運営委員	1
福岡 CAPD ナース会 幹事	1
日本精神科看護協会 精神看護塾「地域看護」 「アディクション看護」運営	1
「看護フェスタ福岡2023」における看護の進路・進学個別相談の協力員	1
福岡県看護協会4地区活動 城南区健康フェア	1
福岡県看護協会主催 まちの保健室	2
福岡県看護協会 福岡4地区支部	1
国際医療福祉大学 認定看護師教育課程「感染管理」 入試委員会	1
福岡県看護協会皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程入試委員会	1
認定看護管理者教育課程サードレベル受講者と修了者の交流会 支援者	1
福岡救急医学会看護部運営委員	1
第2回日韓ホームケア看護師会会議 運営委員	1
日本難病看護学会 広報・渉外委員会 委員	1
福岡市介護認定審査会委員	1
日本クリティカルケア看護学会学術集会 演題査読委員	1
日本クリティカルケア看護学会終末期ケア委員会 委員	1
日本クリティカルケア研究会 運営メンバー	1
日本看護学会誌査読委員会	1
日本看護学会学術集会 抄録選考委員	1
日本看護倫理学会 学術活動推進委員	1
日本救急看護学会 専任査読委員	1
日本移植・再生医療看護学会 教育委員会委員	1
日本医療安全調査機構 センター調査〈C0211〉個別調査部会 部会員	1
日本看護協会通常総会 代議員	1
福岡県看護管理者が輝く会 運営担当	1
福岡県看護連盟福岡3・6支部 支部役員	1

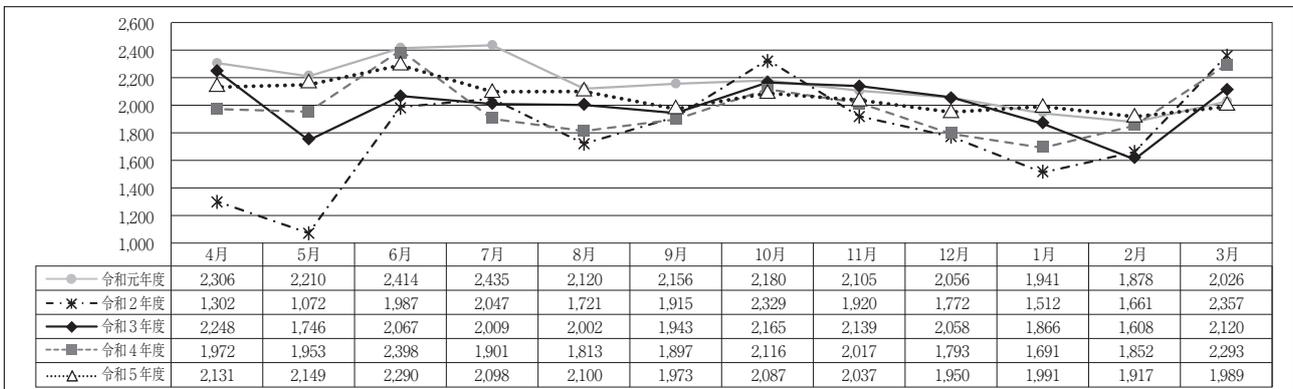
活 動 内 容	人数
福岡県病院協会 看護委員会	1
福岡県看護協会 災害看護委員 委員	1
福岡県看護学会研究発表支援員	1
福岡県看護協会 看護の進路・進学支援委員会	1
福岡県看護協会 教育委員	1
福岡県看護協会 4地区支部長	1
福岡県看護協会 職能理事	1
福岡県助産師活動推進協議会 委員	1
福岡市介護認定審査会 委員	1
日本ニューロサイエンス看護学会 高度実践看護検討委員会 委員	1
日本集中医療学会 集中治療臨床工学委員会 委員	1
日本救急看護学会社員（評議員）	1
日本感染管理ネットワーク学会 理事会	1
日本手術看護看護学会 理事・年次大会委員	2
日本手術看護学会 年次大会 査読委員	1

16. 地域医療連携センター

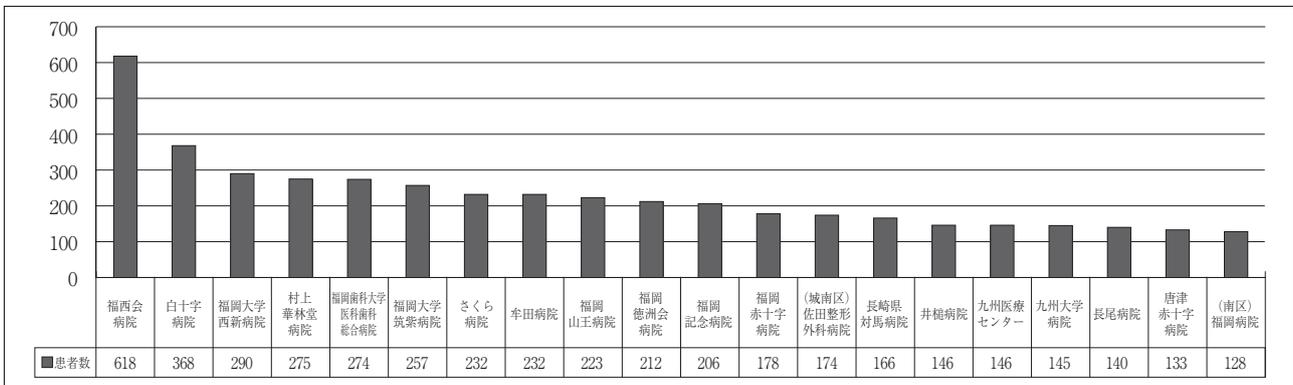
(1) 年度別紹介患者数



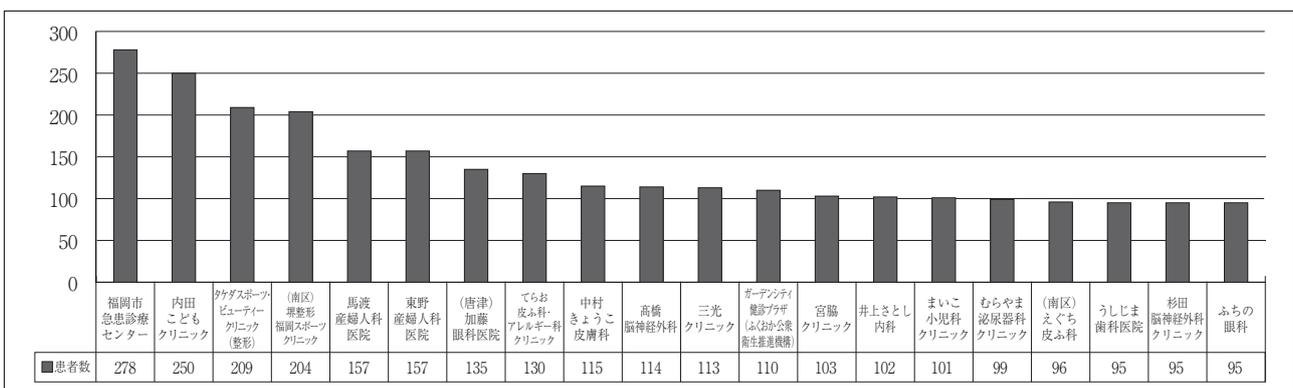
(2) 年度別月別紹介患者数



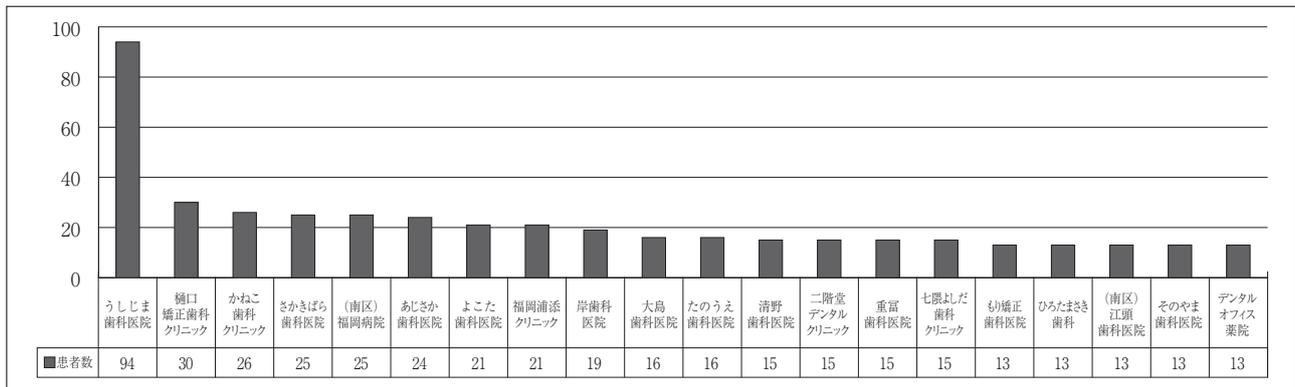
(3) 令和5年度紹介元医療機関別患者数上位20 (病院)



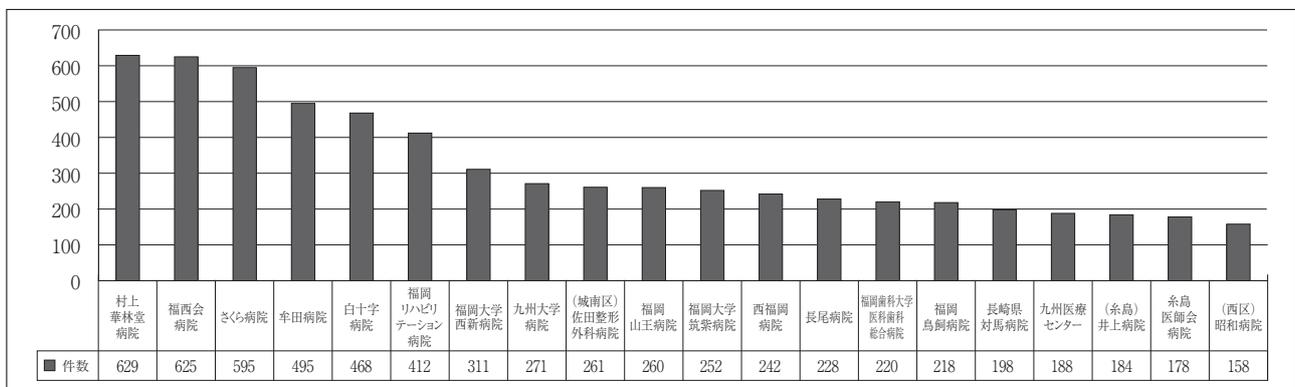
(4) 令和5年度紹介元医療機関別患者数上位20 (診療所・その他)



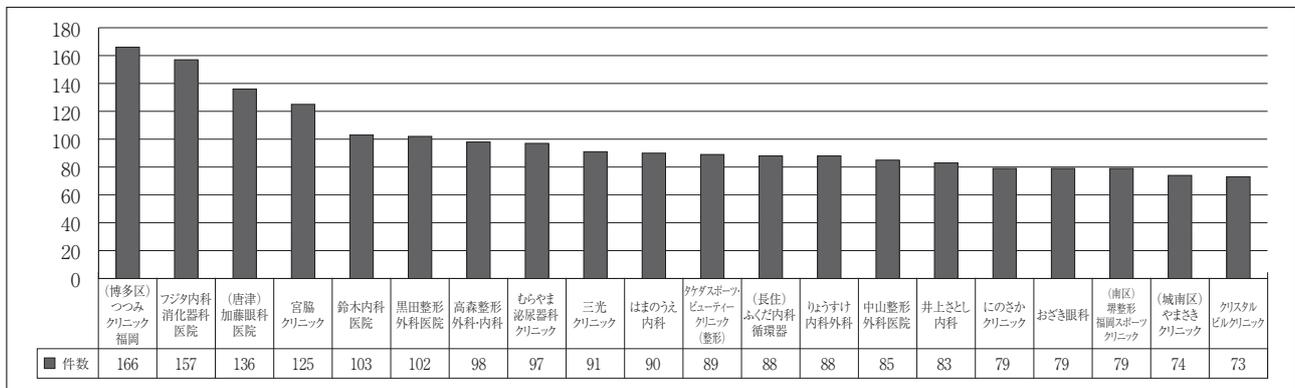
(5) 令和5年度紹介元医療機関別患者数上位20(歯科)



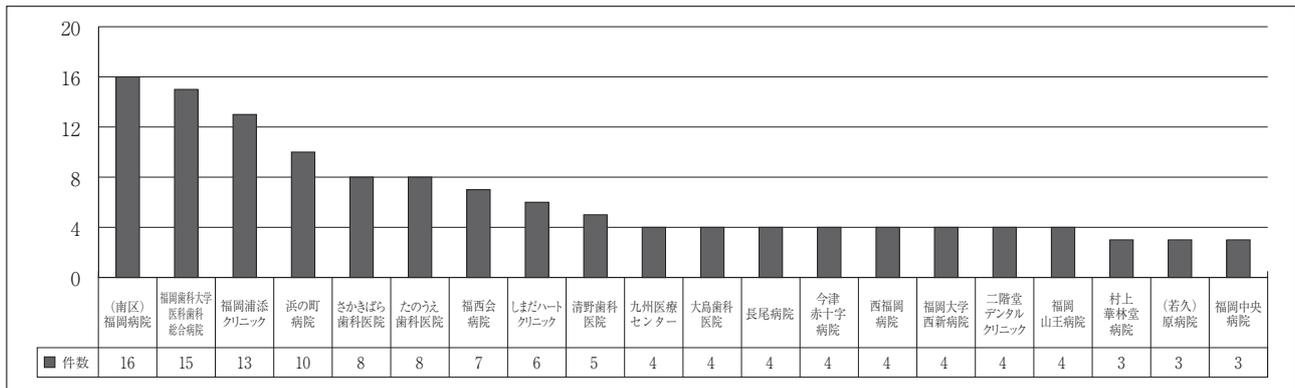
(6) 令和5年度医療機関別紹介状・報告書送付件数上位20(病院)



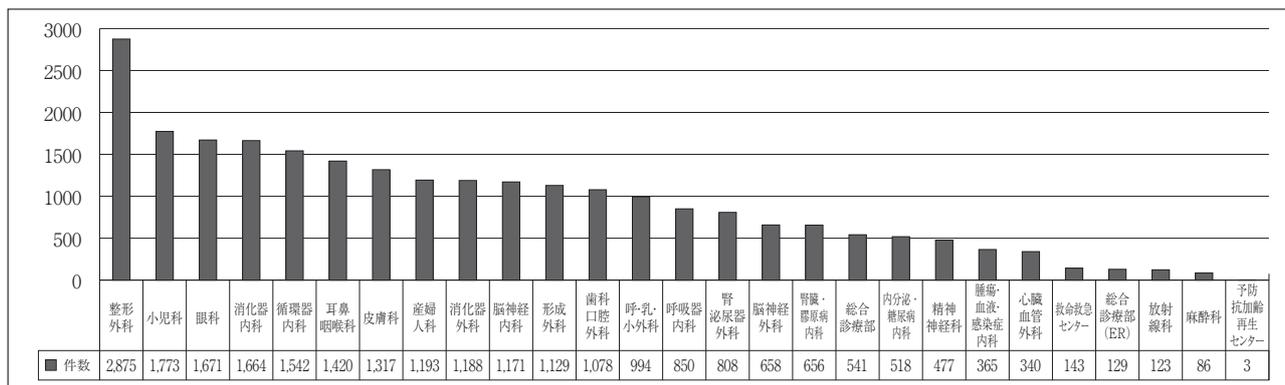
(7) 令和5年度医療機関別紹介状・報告書送付件数上位20(診療所)



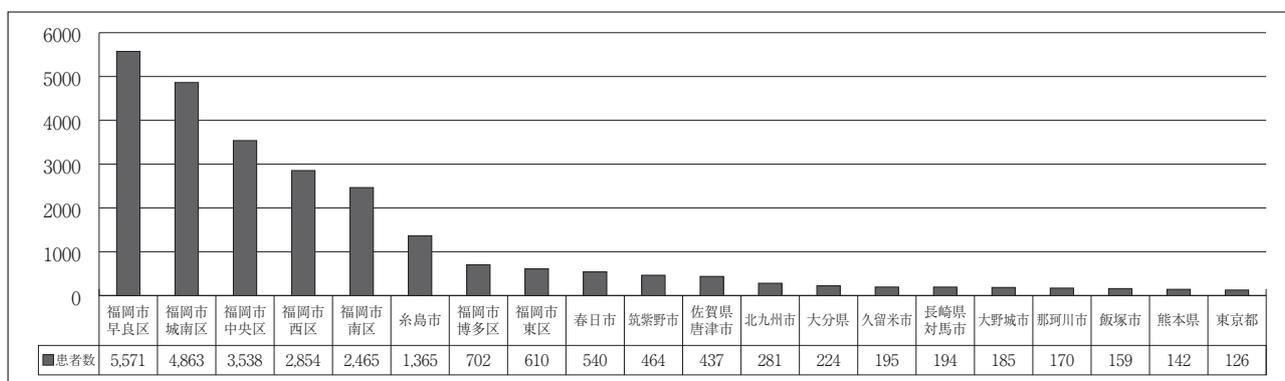
(8) 令和5年度医療機関別紹介状・報告書送付件数上位20(歯科)



(9) 令和5年度 診療科別紹介患者数



(10) 令和5年度 地域別紹介患者数上位20

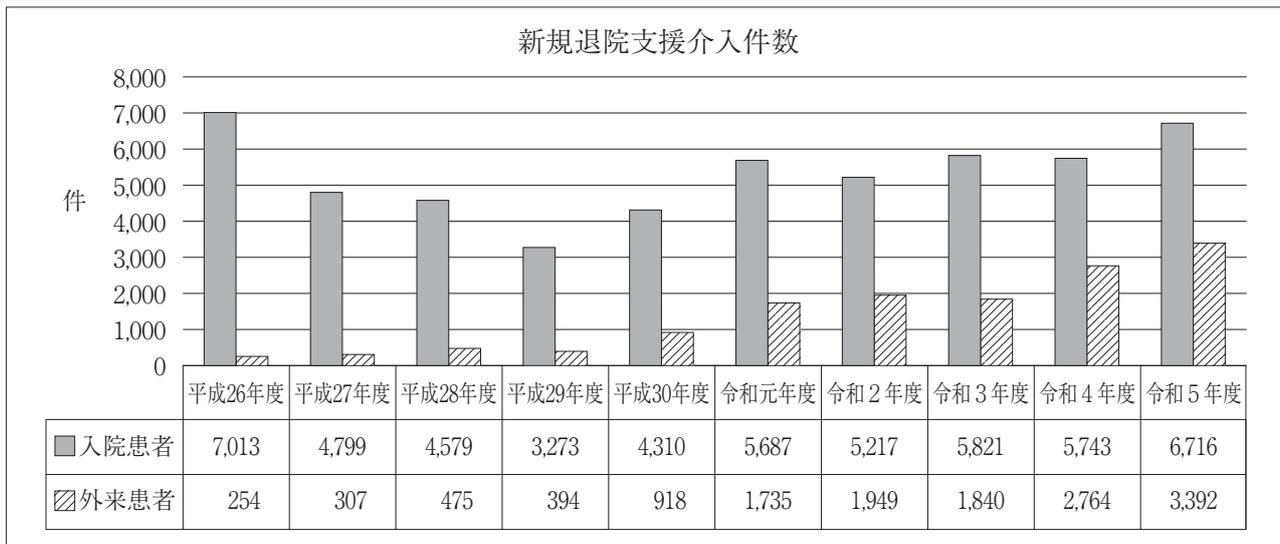


(11) 令和5年度 診療予約その他

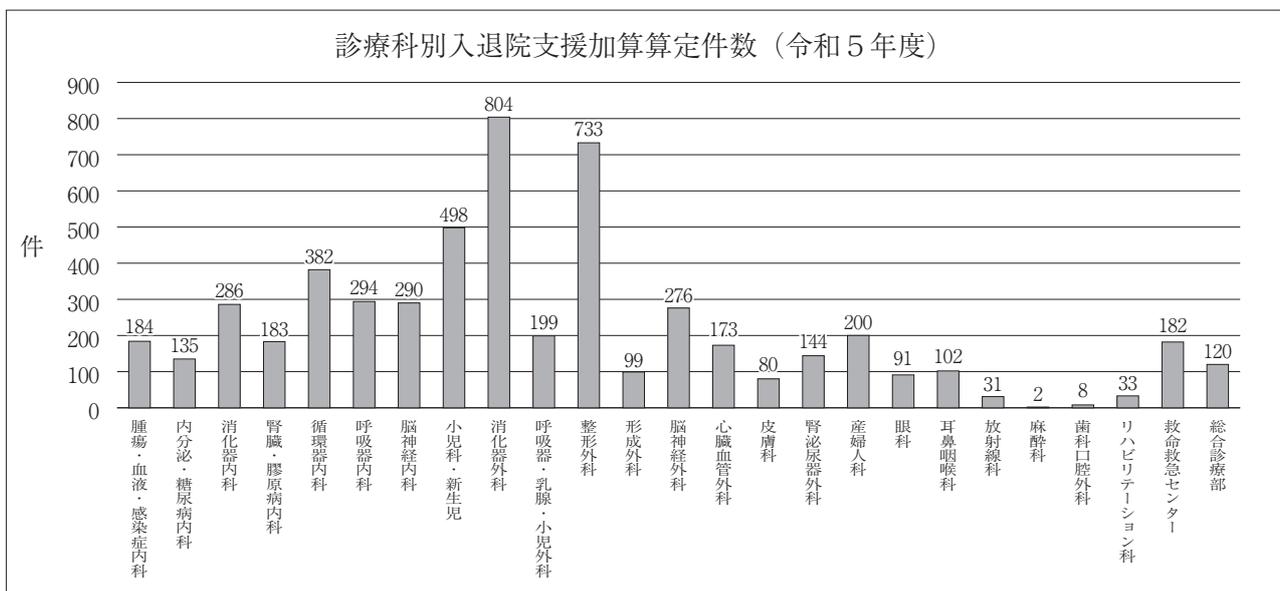
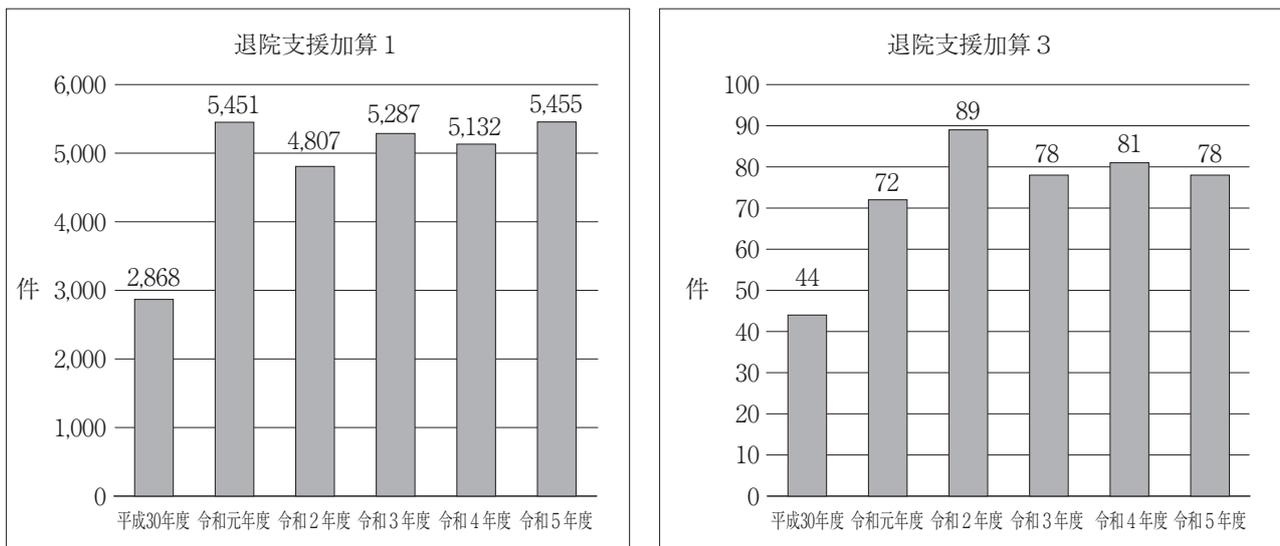
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
セカンドオピニオン予約	25	14	28	40	28
PET-CT予約	42	38	36	44	56
禁煙外来予約	6	1	1	0	0

(12) 令和5年度 地域医療連携センター（後方支援）活動のまとめ

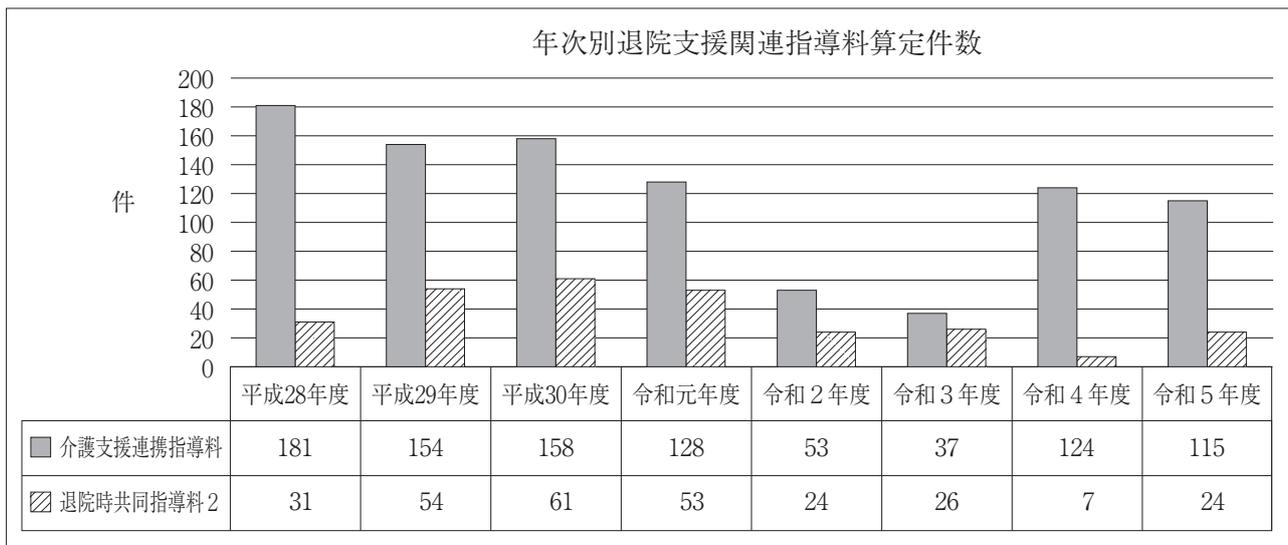
a 年次別新規退院支援介入件数



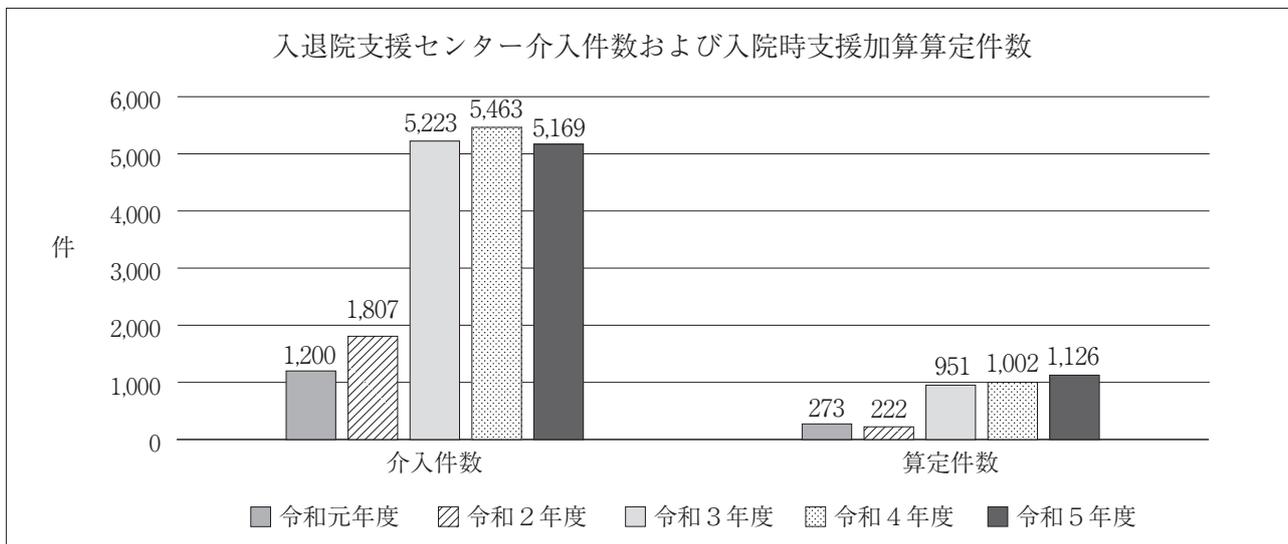
b 入退院支援加算算定件数（年次推移）



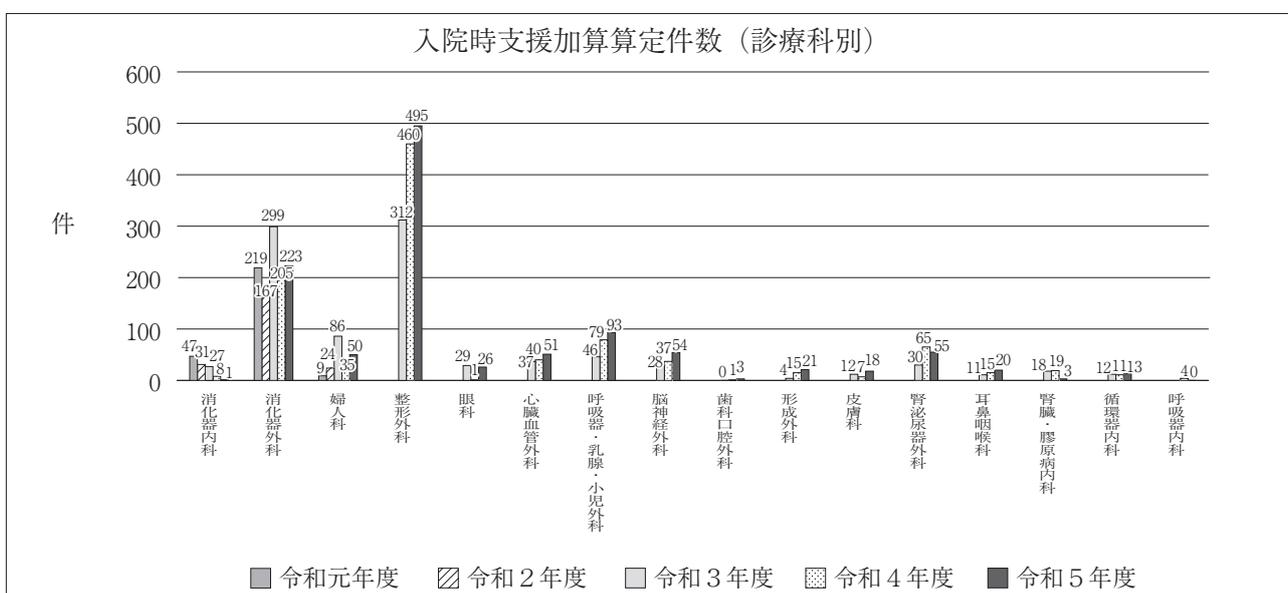
c 年次別退院支援関連指導料算定件数



d 入退院支援センター介入件数および入院時支援加算算定件数



e 入院時支援加算算定件数（診療科別算定件数）

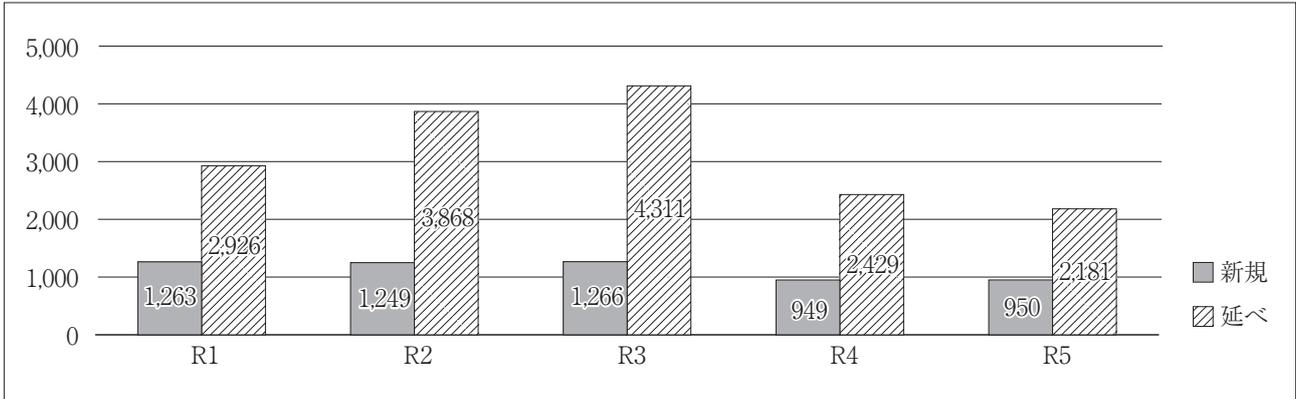


(13) 令和5年度医療相談窓口の統計

1. 相談件数

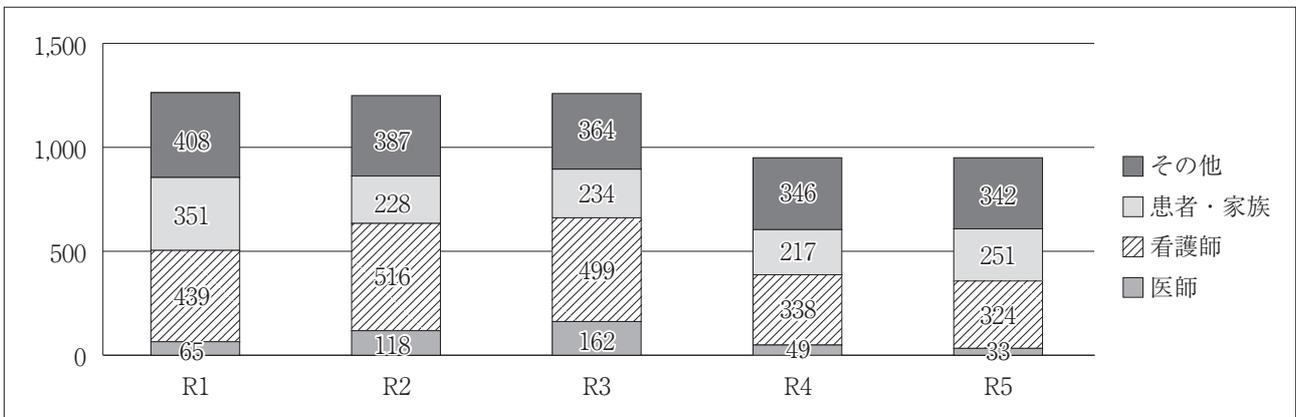
令和5年度の医療相談窓口件数：新規：950件、のべ：2,181件

2. 過去5年間の件数推移



※令和4年度より、件数が減少しているが、これは、医療相談窓口が受けていた相談の一部を、地域医療連携センター後方部門のソーシャルワーカーや看護師が対応する体制に変更し、相談が分散したためである。ここでの統計は、医療相談窓口で取り扱ったものを示している。

3. 新規事例の依頼者別割合

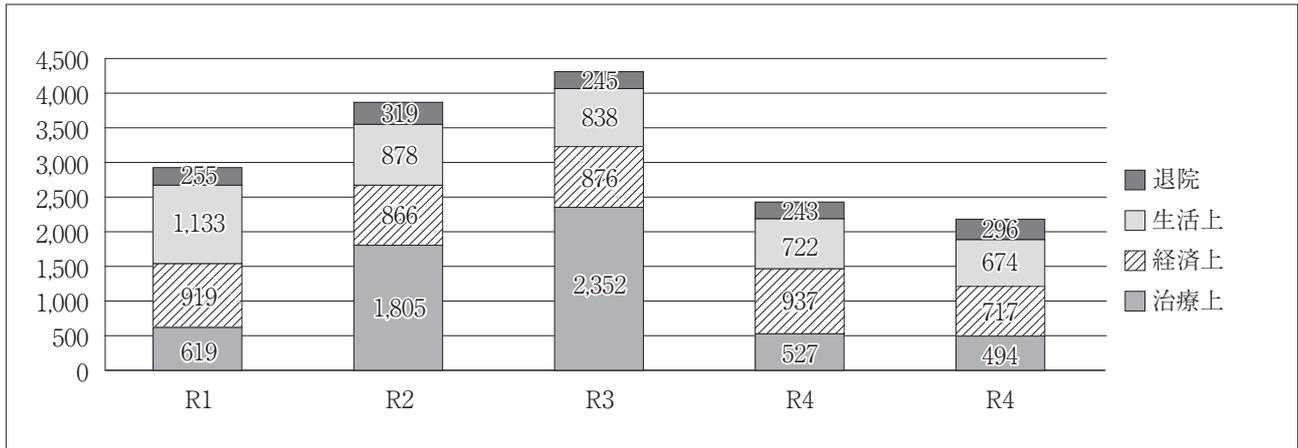


その他の内訳：

(院内) 電話交換、初再診受付、入院受付、文書受付、未収金係、総合案内、医事課、庶務課、調剤室、医療安全管理部、ソーシャルワーカー、メディカルクラーク、病院職員、理学療法士、作業療法士、臨床心理士、臨床体育士、薬剤師、医療情報部

(院外) 親類、知人、会社の人、社会保険労務士、本人の秘書、地域包括支援センター（いきいきセンター）、施設職員、グループホーム職員、障害者基幹相談支援センター、他院ソーシャルワーカー

4. 問題別対応件数 (のべ)



問題別具体的内容：

(入院や治療上)

受診への疑問、受診の相談、受診予約をしたい、処方制限について、診察券再発行、生活保護と受診について、治療への心配、薬についての不安、症状に対する不安、症状の悩み、これ以上治療を受けたくない、海外在住家族を受診させたい、家族からの心配事、セカンドオピニオンを受けたい、治療への家族の関わり、パーキンソン患者のためのカウンセリング体制の有無、今後の診療体制、条件に合う医療機関を探して欲しい、緩和ケア病院を知りたい、今後の行き先、リハビリ病院の情報がほしい、連携医療機関を知りたい、訪問看護について、訪問診療について、入院治療について、入院期間を延長したい、地域医療連携枠の病床の有無、入院できないか、福大病院に転院したい、入院日程の連絡について、入院時の付き添いについて、入院の際の保証人について、身元引受人がない、手術方法について確認したい、手術日の立会いに来られない、病状説明をオンラインで受けたい、未受診患者への家族からの心配、医師への不信任、医師を変えてほしい、治療への不満、受診中のクリニックへの不満、他院への苦情、受診中の歯科クリニックでの悩み、その他病院への苦情・意見・謝辞、母が過去に入院していた診療科を知りたい、終診医療機関での処方の件、情報提供、情報の取り寄せについて、他院受診のために診療情報提供書がほしい、転医の場合の流れを知りたい、入院中に在学中の大学への手続きをしたい、まごころ駐車場利用の為の診断書、近況報告、IBDカンファレンスに出席

(経済上)

医療費負担軽減制度、高額療養費制度、限度額適用認定証、医療費が戻って来る制度、所得税医療費控除、後期高齢者医療、高齢受給者証、労災保険、医療費公費負担制度、難病医療、重度障害者医療、ひとり親医療、アスベスト被害者救済制度、小児慢性特定疾患制度、自立支援医療更生医療、自立支援医療精神通院医療、育成医療、入院費概算、入院費を支払えるかの心配、支払いを待って欲しい、分割で支払いたい、支払方法、医療費未払金、通院交通費の支援の有無、入院時の食事代補助の有無、入院の際の保険証の手続、社会保障制度、休職中の保障、傷病手当金、障害年金、障害年金を切られた、障害年金の初診日、障害年金診断書、遺族年金、書類作成依頼、保険加入、保険の変更、無保険、退職後の保険、経済的心配、経済的困窮、経済的支援の有無、債務整理、金銭管理をしてもらえる所、生活費の心配、生活費支援制度の有無、生活保護の申請、生活保護のこと、入院証明書(生命保険)を頼むタイミング、病気があっても入れる保険の有無、患者申出療養制度について

(生活上)

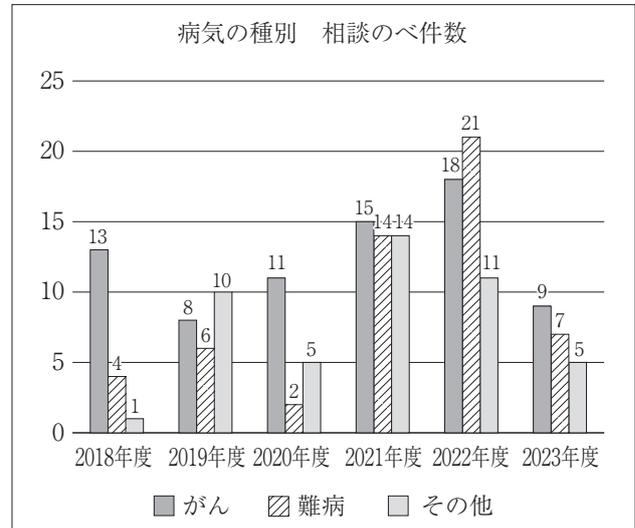
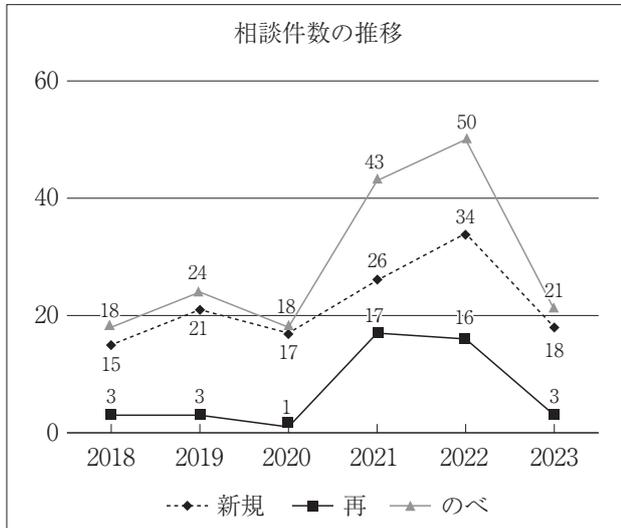
身体障害者手帳、身体障害者が使える制度・サービス、身体障害者手帳該当の有無、精神障害者保健福祉手帳、療育手帳、居住環境への不満、近況報告と愚痴、メモによる近況報告、在宅の不安、社会資源を知りたい、社会資源を導入したい、手術後の生活の不安、脱毛への対応方法、ADLが低下した時の心配、車いすのレンタル、医療機器入手方法、通院困難、歩行時の杖、生活面での症状悪化予防、生活と進路の悩み、生活のきつさ、生活の大変さ、生活の不安、生活上の悩みを定期的に話せる場がほしい、高齢者虐待、父親との関わり方、ドメスティック・バイオレンス、子育て支援、出産後の支援、育児と家事の両立、学業との両立、仕事との両立、就労、退職後の保険や就労先の選択の迷い、社会保険労務士との両立支援相談、親亡きあとの生活、本人（シングルマザー）亡き後の子どもたちのこと、介護の申請方法、介護タクシー、介護認定の申請、介護認定の報告、入所可能な施設、施設入所の検討、高齢者住宅、グループホームについて、キーパーソンの不在、希死念慮のある独居の人の見守り、ヘルパー体制への不満、訪問看護特別指示書、訪問看護から通所に変更するための手続き、生活保護受給者の転居に伴うエアコン設置、生活費切り詰めによる栄養不足、緊急時に備え常に身に付けておく糖尿病証明書がほしい、まごころ駐車場診断書

(退院)

退院後の心配、退院後の準備、退院後の介護タクシー、退院後の行き先、退院後の住居、退院カンファレンス

5. 両立支援出張相談

福岡産業保健総合センターから派遣される両立支援促進員（社会保険労務士）による無料出張相談。定期相談日は月2回（第2・4金曜日の午後1時から4時）だが、患者さんの事情により臨時相談日を設けることがある。



(相談内容例)

「地下鉄での通勤が難しそうなので職場復帰をためらっている」「部署の長にしか伝えていない病気のことをさらに上の部長にどう伝えたらよいか」「治療に合わせた働き方がわからない」「職場や友人にどこまで伝えたらよいか」「トイレの回数が多い事が心配だ」「勤務時間が長いので復職後耐えられるか心配だ」「職場復帰し休みを増やしてもらったがフルタイム勤務はきつい」「複数業務を同時にさばけなくなり同僚から迷惑がられている」等

(社会保険労務士の対応例)

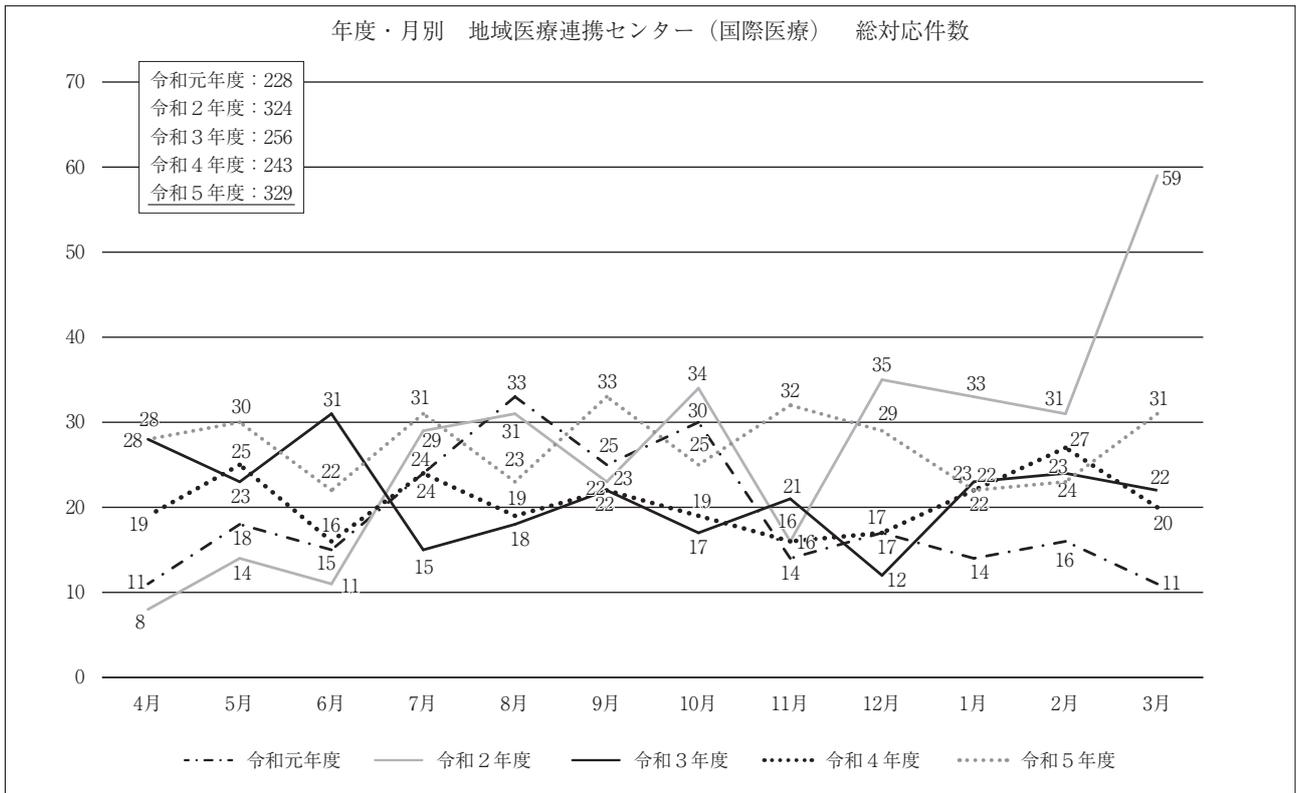
- ・ 仕事内容の変更や、バス通勤、出勤時間の繰り下げなどを申し出ることを提案された。
- ・ 上司には配慮してほしいことを、同僚には体調不良のみを伝えるよう助言された。
- ・ 配慮してほしい内容を整理して伝えることを提案された。
- ・ 職場に病名は伝えなくてよいので、病状だけを伝えて配慮を希望するよう助言された。
- ・ 長年勤めているのだから、配慮してほしい事を遠慮せず伝えて構わないと助言された。
- ・ できること、できないことを紙に書いて示し、配慮を求めることを勧められた。

(相談した方の反応)

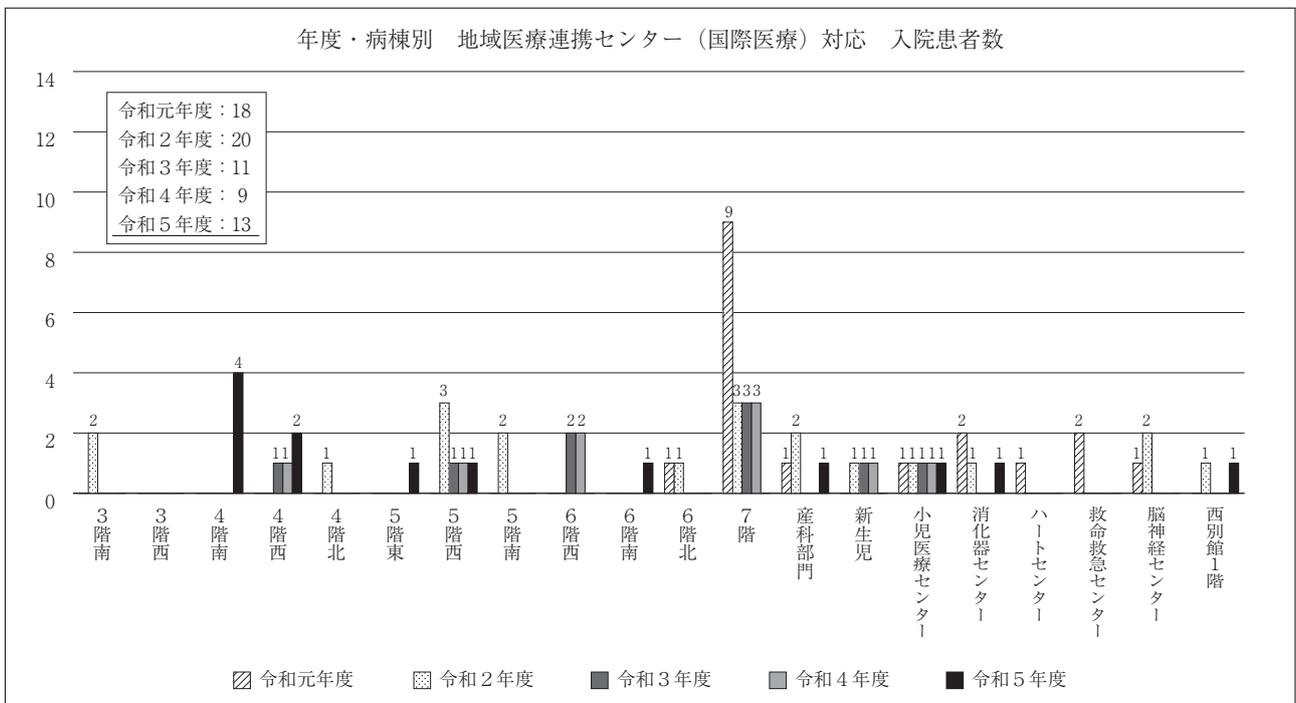
「職場に配慮をお願いしてみようと思う」「話して気が楽になった」「職場と話す際の心構えができてよかった」「不安だった気持ちが軽くなった」「職場に伝えるべきことがわかった」等

(14) 令和5年度 国際医療活動報告

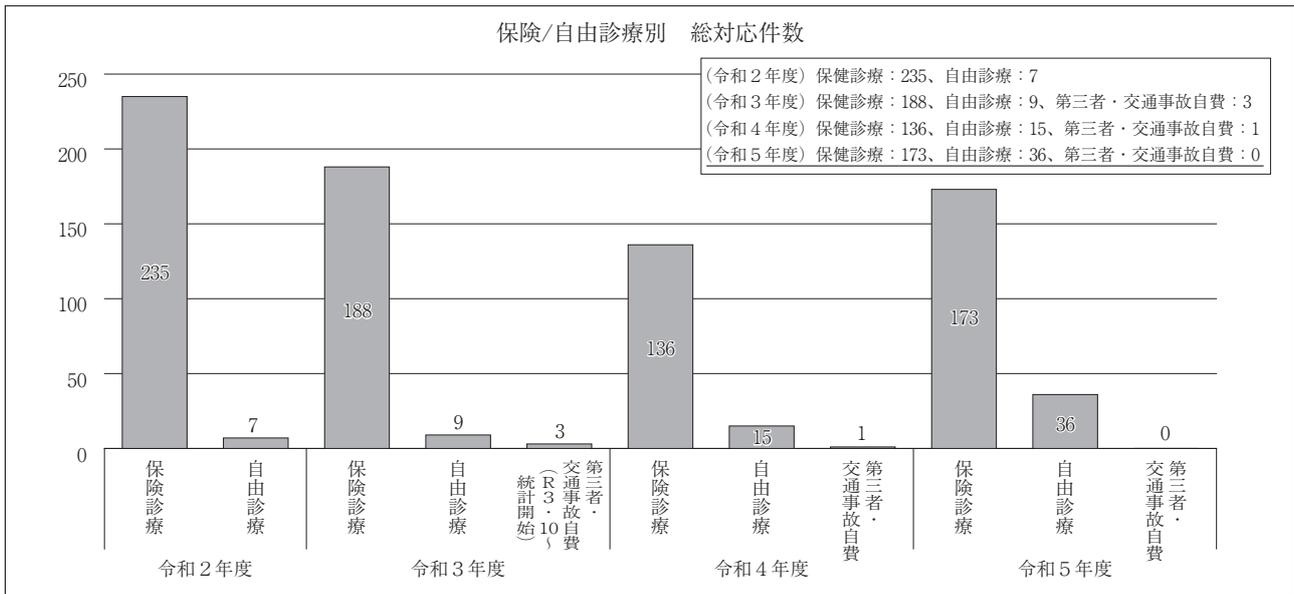
1. 地域医療連携センター（国際医療部門）が関わった対応件数（自由診療・保険診療・問合せ 総数）



2. 地域医療連携センター（国際医療部門）が関わった入院件数



3. 地域医療連携センター（国際医療部門）が対応した患者の保険/自由診療別件数



4. 地域医療連携センター（国際医療部門）が対応した患者の言語別件数

